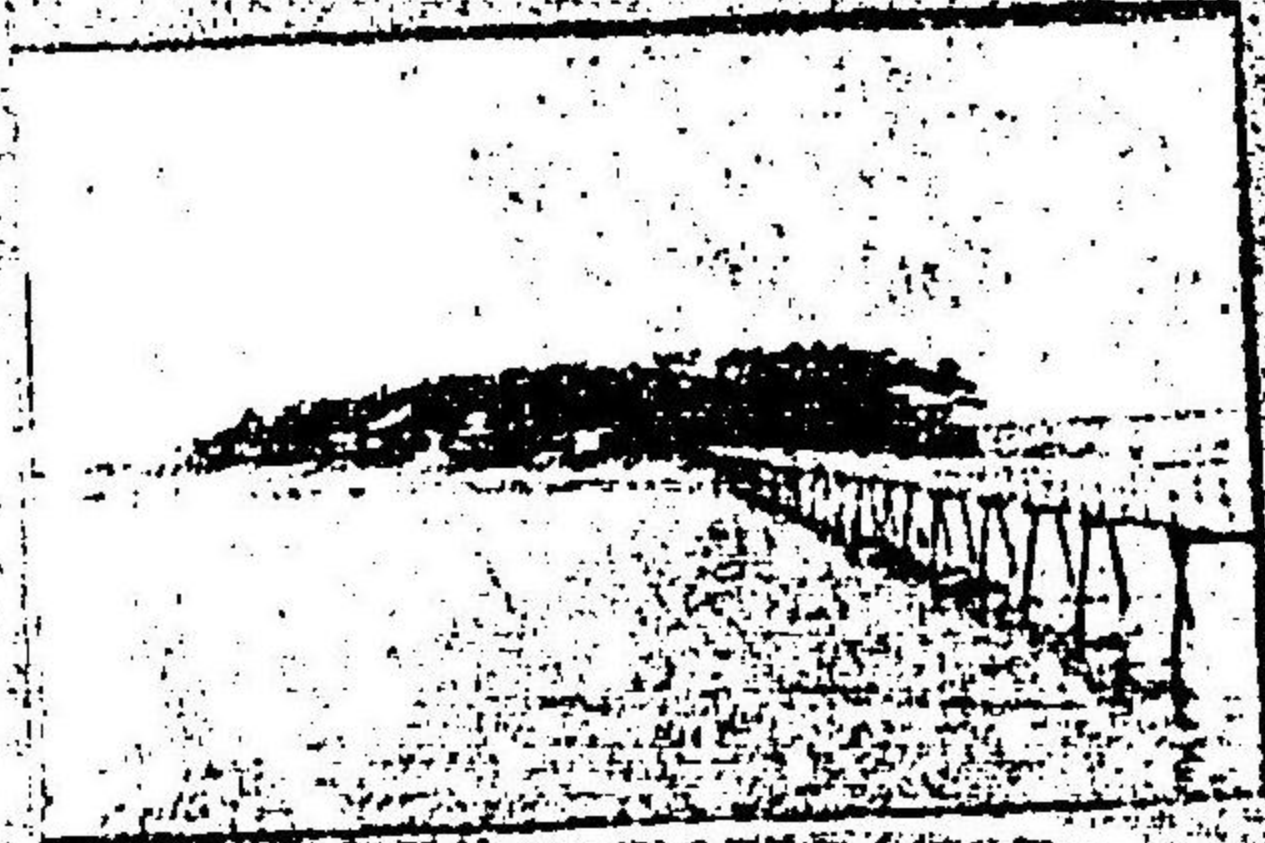
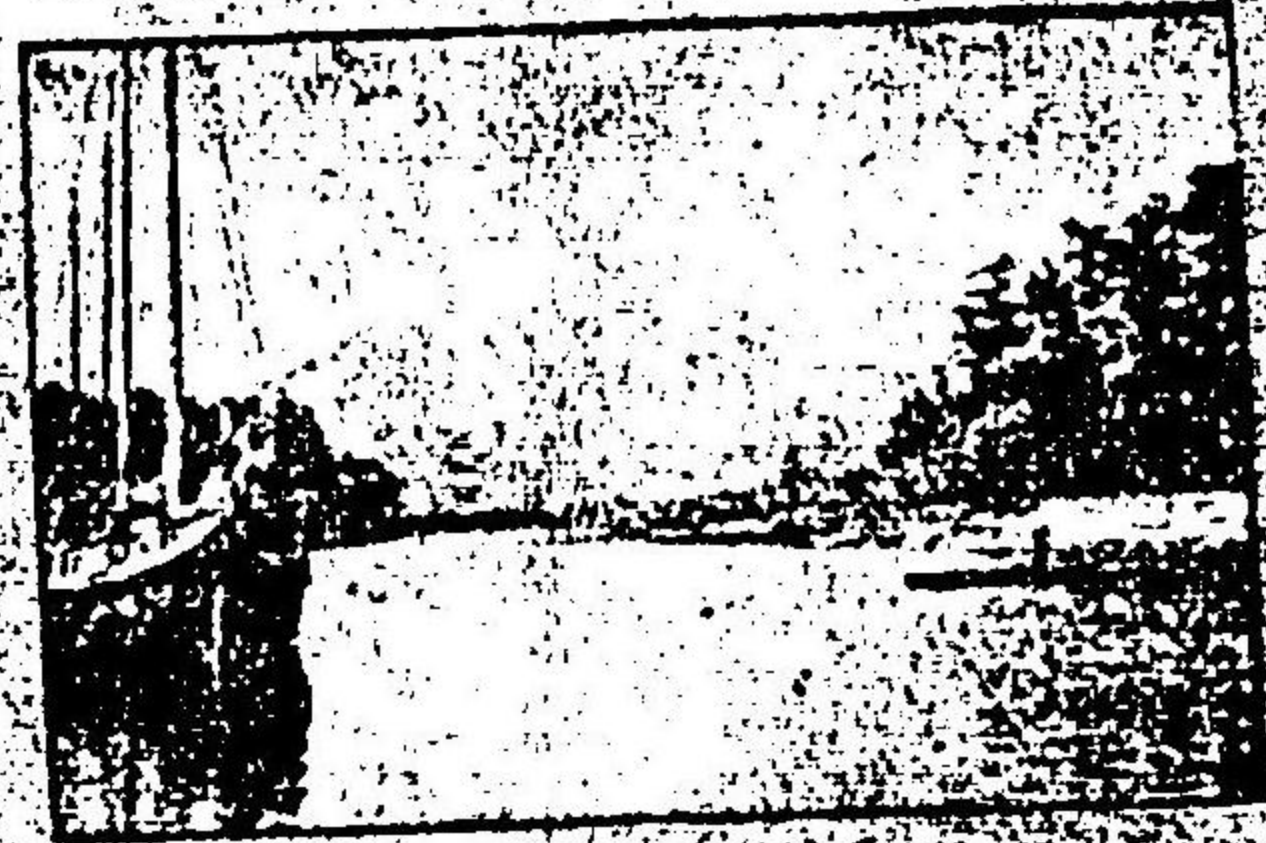
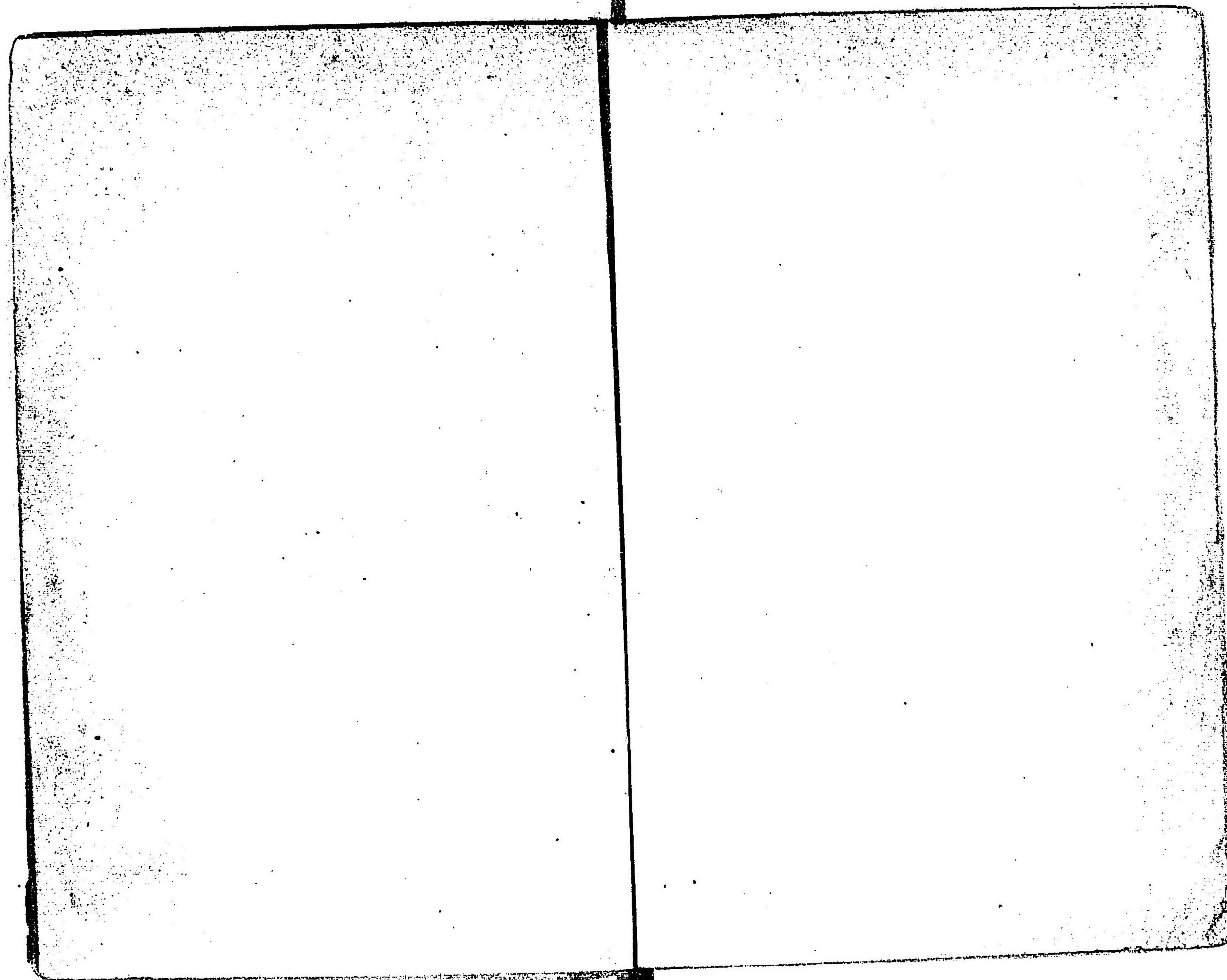


最新避暑案内

29
172





告

廣

上州草津溫泉泉

(御一報次第詳細ナル案内書ヲ呈ス)

世界唯一之治療場
 無比
 黑岩忠四郎
 望雲館
 電信署名(シシ)

上州草津溫泉旅舎

望雲館

黑岩忠四郎

電信署名(シシ)

赤倉温泉

當樓ハ妙高山東麓赤倉温泉場ニアリ東南ハ遙ニ信越ノ諸山ニ對シ北ハ海洋ニ面シ海面ヲ抜ク二千五百尺餘位置高燥極暑尙八十度ヲ越エズ避暑養病ニ適ス風景ハ第一ヲ占メ客室清潔料理ハ和洋共調進勉強廉價ヲ旨トス

新瀨縣中頸城郡妙高村字一本木新田
赤倉温泉 香岳樓

信州遊温泉宿

原泉館湯本喜四郎

避暑案內
内湯月の湯は別荘鈎月園中に在り
山鵲窓外を撓り浴して月を見るの快に
富む

川原温泉

當温泉場は上毛吾妻郡の西北部金雞山の半腹に在り海面を抜出すること二千八百尺の處にして山を負ひ水に臨み幽邃にして新鮮の空氣自ら心を清ふす且此地や深山の間在るを以て京城の炎熱金を爛らかすの候と雖も涼風陳々として樓欄を吹き爽然永夢を結はしむ其湧出する處の温泉の効能は

胃病、レウマチス、子宮病、月經不順、痛風、關節痠痺、貧血症、脚氣、消化不良、神經痛、腸胃加篤兒、子宮加篤兒、慢性皮膚病、疝痛

上野國川原温泉取締所

小仙境 名勝 舊跡アリ 埼玉縣中仙道大宮氷川公園

氷川

鑛泉專有 旅館 別荘 萬松樓

御旅籠料 ○特等○二等 ○一等○三等
御席料 滞在賄料
但明細書ハ御光來
節呈上仕候

上州 草津温泉

温泉 泉 元

一等旅館 一井善三郎

○本館は當地の中央に位し市中到る處に二層三層或
 四層造の別館數棟を建築致候間御入浴の便極めて
 宜しく又四顧の眺望に富む
 ○本館の浴場は各別館毎に十數餘の設有之候間御入
 浴最御便利にして且御望により貸切も可仕候
 ○本館は新聞雜誌縱覽所の設あり○當地は電信の便
 有之候
 ○當地の景况等詳細の義は御申越次第案内記御呈送
 可仕候

當鎮泉は吾妻郡の北部に位し西は白根の高嶺嶺々ど
 して雲間に聳へ南遠く淺間の噴烟を望み地高燥にし
 て海面を抽くと四千五百尺酷暑と雖も華氏八十度
 を超へず又蚊害なし空気が極めて清良にして風光亦爽
 快真に避暑衛生の好境とす鑛泉は湧出常に混々とし
 て其夜止む時なく泉質の純良にして功驗の顯著なる
 泉湧口は四十餘ヶ所名所舊跡枚舉に遑あらず
 泉は普く世人の熟知せらるゝ處未嘗万国其比を見ず温

豆州 伊豆山温泉瀧

相模屋文作

室内大湯瀧、水瀧、海水湯アリ

温泉浴室内ノ雄瀧、雌瀧、ハ強弱度ナ異ニ

シ浴客ノ便利此上ナシ

熱海ヨリ僅ニ十八町洵ニ恰好ノ運動場ナ

涼風靜波
風光絕佳
真是好適
之避暑地

相州逗子海水浴場

養神亭

逗子停車場ヨリ僅二十町

露披御成落築増

今般新座敷増築落成仕候ニ付
從來ノ眺望ニ一層風致ヲ添ヘ
富士箱根ノ山脈及鎌倉三浦ノ
風光等ヲ見晴シ御宴會ニ尤適
當且御料理ノ儀ハ新鮮ナル魚
介ヲ用井事々衛生ニ注意シ諸
般親切ニ御取扱ヒ可申上候也

御料理御宿泊

相州

さぬきや

江ノ島

((内案御館來雨疑))

當館ノ位置は桂川南岸の崇峻を占め白糸の瀧蝦蟇淵を左右に控へ嵐山塔峯其背後に絶佳なると實に當地中第一に候加之十勝を見れば空気の流通光線具合樹木泉石の配置等最も客室の構造は新築せしものなれば夏涼冬暖極めて攝生に適し注意して新築の湯白糸の湯は天然の岩石を鑿りて掘り出し候殊に内湯に富み必要なる岩を鑿りて掘り出し候も温熱の力に富み眼病、腸胃病、痔漏、淋病、健麻質斯、子宮病等に奇効あるは及申老幼婦人及病後の補浴として特効あるとは多年の實驗にて保最す所に御座候又別邸は當地の中央にありて入浴の便虎溪橋の夕照等眺に富み坐し修禪寺を望み鑄湯の餘興少ならず内湯保生泉は瘡毒、皮膚病、淋疾、胃病、健麻質斯等に顯效有之候尙當館は愛顧各位の既承知の如く御引立を蒙る事と無益の修飾を省き御失費を少くし未長く御引立を蒙る事と無益の修飾を居候間陸續御來遊あらせられ度候頓首

伊豆修善寺温泉旅館

疑雨來館 野田屋八郎平

上毛四万温泉宿廣告

鹽の湯 養陵館 清心館

主 田村茂三郎

當温泉

は上毛の北部山紫水明清閑の境に在り前橋高崎より十
 交通自由にして東京上野一帯列車にて容易に日着し得べし客棧は潺湲
 たる溪流に臨んで建設せられ紫巒高く聳ゆ茲に呼吸する者自然の
 風光と靈泉の特効と兩つながら相待ち直に脱塵靜養の思あらしむ
 効能 定する能はざるべく是れ當温泉の世に名だゝる所以なり其

効能

主治効能は
 胃弱。消化不良。頑固健麻質斯。脚氣。貧血性。肝臟病。習慣の便秘。
 慢性皮膚病。脱臼挫傷に由て生ずる四肢關節の痠痺。神經痛。遲鈍
 性潰瘍。子宮及膝の血客留。疝痛。月經不調。痔疾。疥癬。

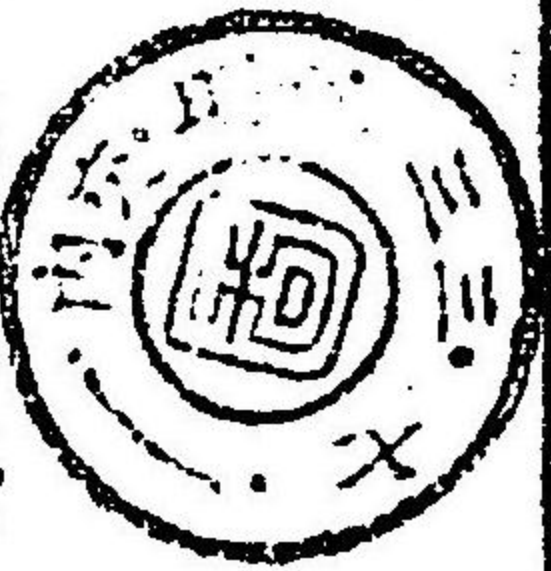
滞在費

強仕候
 盛夏の候華氏八十五度を最高とし冬時は地勢上例外に温暖
 なれば近年入浴者絶ゆる時なく四時共に入浴に適す
 客室浴場 且既に愛願諸彦の御好評も有之候事なれば茲に
 改めて申陳べし候 猶詳細は御照會次第御速答可申上候

客室浴場

改めて申陳べし候

凡例



一 本書は本會の調査を實踐せる所にして、避暑に適當の地を廣く世に紹介せん爲めには編輯せるものにて、専ら事實の最新にして確實なることを期したり

一 此書は全国各地の避暑地を網羅せん豫定なりしが、發行期日切迫の爲めに、普く一般に亘らざるは、本會の遺憾とする所なり、且版を竣つて増補すべし、

一 此書載する所の汽車賃、人力車賃、材料及物價等は最近の調査に係り、其宿料物價の某地に詳にして、某地に畧せるは、其附近の地

と大差なきを以てなり、

一 此書表紙の寫眞畫は、一は草津園山遊園、二は富士山遠望の圖、

三は遠州舞阪にして裏面にあるものは江の島金龜樓の眞景をうつせるものなり、

一書中挿入の富士登山順路の圖は、御殿場不老館主の寄送に係り、會員櫻葉軒子の縮寫并に彫刻せるものなり、

一此書を編するに當り、専ら執筆の勞に當られたるは、會員七戸篤次郎氏にして間々行文の統一を闕きたるは、各會員の起草せるものを其の儘登載せるを以てなり、再版を期して訂正すべし

一三宅修道、高田乙三、大岡哲吉の三氏は、特に編者に對して些なからざる注意を與へられ、又各地の旅館等よりは、参考となるべき材料を投寄せられ、爲めに紙上一段の光彩を増したるは、本會の深く謝する所なり、

明治三十三年六月

編者識

避暑案内目次

目次	頁
海水温浴及温泉入浴者心得	一
海水冷浴及游泳の心得	六
武藏國	
大宮	一頁
青梅	二
御嶽山	四
小瀨内温泉	五
鹿の湯	六
高雄山	六
大森海水浴	七
池上	八
羽田鑽泉	九
金澤	一〇
相摸國	
鎌倉	一一
江の島	二〇
片瀬海水浴	二三
逗子海水浴	二四
松輪海水浴	二六
鶴ヶ沼海水浴	二七
大津海水浴	二七
茅ヶ崎海水浴	二八
大磯	二八
國府津	三一
酒匂海水浴	三二
小田原海水浴	三四
箱根	三五

目次

真鶴海水浴	四一
伊豆國	
伊豆山	四三
熱海	四六
伊東温泉	五〇
修善寺温泉	五六
湯ヶ島温泉	五九
戸田海水浴	六二
駿河國	
佐野湯園	六四
外臥海水浴	六五
我入道海水浴	六七
靜浦海水浴	六七
富士山	六八
清見瀧海水浴	七七
久能山	八一
志大嶺泉	二
遠江國	
舞坂海水浴	八四
劍賀海水浴	八六
鷺津海水浴	八七
三河國	
蒲郡海水浴	八八
伊賀湖岬	八九
前芝海水浴	九一
尾張國	
大野海水浴	九二
師崎海水浴	九三
安房國	
北條海水浴	九五
高崎嶺泉	九七

目次

鴨川町	九八
天津町	九九
清澄山	一〇〇
千倉嶺泉	一〇一
鋸山	一〇一
上總國	
鹿野山	一〇四
一の宮	一〇五
八幡岬海水浴	一〇七
湯倉嶺泉	一〇八
下總國	
稻毛海水浴	一一〇
犬吠ヶ岬海水浴	一一一
香取神社	一一二
常陸國	
鹿島神社	一一四
筑波山	一一五
大洗海水浴	一一六
信濃國	
輕井澤	一一八
淺間温泉	一一九
淺間山	一二〇
澁温泉	一二三
戸隠山	一二七
湯田中温泉	一二八
廢院の床	一二九
越後國	
赤倉温泉	一三二
上野國	
四萬温泉	一三四
川中温泉	一三六
川原温泉	一三八

草津温泉……………一四〇
 伊香保温泉……………一四六
 磯部温泉……………一五〇
 妙義山……………一五二
 澤渡温泉……………一五三
 霧積温泉……………一五四
 巖塚温泉……………一五五
 長岡温泉……………一五六

下野國

日光……………一六七
 磐城國
 鎌先温泉……………一七三
 小原温泉……………一七四
 甲子温泉……………一七五
 岩代國
 東山温泉……………一七七
 深堀温泉……………一七七
 白河湯本温泉……………一七八
 土湯……………一七八
 飯坂温泉……………一七九
 湯野村温泉……………一八一

陸前國

松島……………一八三
 菖蒲田海水浴……………一八九
 作並温泉……………一九〇

青根温泉……………一九一
 陸中國
 五串の湯……………一九三
 附 録
 行脚の掟……………一九七
 旅行に就きて……………二〇〇
 行脚の覺悟……………二〇五

最新避暑案内

海水温浴及温泉入浴者心得

妹尾勇吉編

一入浴の日数は各病症に随て加減あるものなれば豫め之を一定すること難けれども大抵三四週間を以て通常とす、餘り日数の短きは效顯なかるべし、

一老人小兒並に虚弱の人には勿論、強壯の人と雖ども長湯は堅く無用なり、大抵五分乃至十五分位を適度とす、各人身體の強弱及び湯の温度に應じて斟酌せよ、

一入浴の度数も大凡程度のあるものにして一日に餘り數多きは好しからず、先づ最初の一週間は一日に二回とし其後は三四回を以て

- 二
- 度とすべし、但老人又は虚弱の人は尙一回を減ぜよ、
 - 一浴湯の温度は熱きに過ぐるは良からざれど、さりとて餘りに冷たきも悪し、華氏九十度より九十七八度の間を以て適當とす、
 - 一精神身體の疲憊せる時には入浴を避けよ、殊に遠方より旅館に到着するや否や直に入湯する勿れ、少なくとも一時間は身體を落ち付け氣を静めて然る後入浴すべし、
 - 一入浴の時刻は朝食事前と午後三四時の間を最もよしとす、深更に入浴するは害あり、八九時頃を過すべからず、
 - 一入浴逗留中は暴飲暴食は勿論、冷水不消化物は努めて避けよ、胃の機能を調ふるの必要あればなり、
 - 一入浴は空腹の時又は酒に酔たる時を忌む、食後は一時間を過ぎたるの後たるべし、

- 三
- 一入浴せんとする時は先づ湯に浸せる手巾もて全身を拭き若しくは湯をかけ身體を温めて後、徐ろに入るべし、冷たる儘にて直に入るは宜しからず、
 - 一悪寒、發熱、頭痛、眩暈、等あるときは入浴を見合せ相當の手當をなすが肝要なり、
 - 一浴後は必ず淨水にて顔を洗ひ、和かなる手巾もて全身を軽く擦らし直に浴衣を着、冷へざるやう注意すべし、
 - 一浴室にて髪を洗ひ（婦人の事を知る可し）又は下帯を濡くは愚者の所爲なり、人に笑はるゝぞかし、
 - 一浴室にて高聲を發し或は小唄をうなるは下卑なり、人に賤めらるべし、
 - 一男女混浴は御法度なり、犯すべからず、

- 一 瀧に打たるゝは長ろしけれども長きに過ぐるは害あり、
- 一 瀧に打たせんとする局部へは手巾を二三重に疊みたるものを敷き其上を打たすべし、
- 一 痛める局部は瀧に打たすべからず、頭部を強く打たすも宜しからず、
- 一 晝寝は忌むべし、假寝は害あり、早起早眠壽命長久とは善き教訓なり、忘るべからず、
- 一 己の居室は毎朝婢僕の手を俟たで自ら掃除するがよし、物の始末もよければ運動にもなるなり、寝具衣類は毎に大氣に曝すべし、
- 一 毎日一定の時間は運動を怠るべからず、
- 一 附近の名所古跡は逗留中に訪ひ置くべし、復來た時になど、未來のことをあてにすべからず、機會は得難きものなればなり、

- 一 隣室の客と懇意にするはよけれども、骨牌の如き勝負事は慎しむがよからん、退屈なる時は適宜の散歩をするがよし、新鮮なる空氣を呼吸し、快満なる景色を眺めながらに、
- 一 入浴逗留中は徒然のあまり連れ欲しきものなれども、男女相近づくことは慎むべし、女中などに戯るは恐ろし、
- 一 小説、新聞、詩歌集、紀行文の如きものは長き友なり、されど卑猥の小説は手に觸るべからず、六ヶ敷書物に頭腦を苦ましむるも宜しからず、浴地にある間は一切の世事を打棄て氣樂に保養するこそ肝要なれ、
- 一 入浴者の心得大畧右の如くなれど、處かはれば泉質もかはり氣候も異なるべければ、委しきことは、それぞれ經驗ある宿主又は醫師に就て聽くが宜し、温泉内服の如きは特に然りとす、

海水冷浴及游泳の心得

六

- 一冷浴は初より度数の多きは宜しからず、最初は一日一回と定め慣るゝに随ひ三回位までは差支なし、游泳も亦同じ、
- 一時刻は午前九時より十一時まで、午後四時より六時頃までを其しとす、
- 一一浴の時間は五分乃至十分位を可とす、
- 一疲労の爲め發汗し又は熱度亢進せる時直に水浴するは宜しからず
- 一浴地にありては自然日常の生活習慣の變更を來すが故頻りに食慾の進むものなれど、慎しみて過喰すべからず、満腹の時空腹の時又は飲酒後の入水は害あり、殊に焼酎は最も嚴禁たるべし、
- 一海水に入るに當りては先づ手足を前後左右に動かして適當の運動をなし、顔を洗ひ、指頭にて耳孔の口を濕し、若しくは頭に水を

- 一注きて後、徐に入るべし、
- 一高處より跳つて水中に入るには先づ其水の深淺を測り、岩石等の有無を承知しての後たるべし、腹部を打たざるやう注意し、陰囊を覆ふこと肝要なり、
- 一游泳者は先づ潮流の方向を知ることと要す、變潮甚だしき處にては決して遠くへ泳ぎ行く勿れ、
- 一游泳中、轉筋こむらねしたる時は氣を落ちつけ、軀を水中に沈め足の指を執り強く上下に交互屈曲すべし、若猶治せざれば徐ろに双腕を以て泳ぎ又は仰泳して岸邊に近くことを努め、且救を呼ぶべし、決して周章あわてること勿れ、
- 一游泳中戯れに溺るゝ真似し、佯りて救助を求むるなどは、恐るべき惡戯なり、

七

内 案 暑 通 新 最

一浴後は淨水を以て傾瀉浴又は雨浴をなし和かなる手巾をもて全身を摩擦して衣服を着すべし、浴後邪氣に觸るゝは悪し、發汗するも衣を脱する勿れ、



武藏國

大宮

大宮は、中山道線と奥羽線との岐るゝ處にして、上野停車場より汽車に乗れば、僅に一時間にして達すべし、停車場を距る十五町にして公園あり、氷川神社は、官幣大社にして武藏の總鎮守たり、社殿甚だ宏壯ならずといへども、四邊樹老ひて自ら神々たり、社前にみたらしの池あり、周回十餘町、小舟を浮ぶべし。

春の花、秋の虫、何れとして妙ならぬはなれども、わけて此の地は螢の名所として、夏の初めに至れば、多數の螢、闇を縫ふて飛ひかふさま、ねさねさ宇治音羽の奇觀にも劣らざるべし。

氷川神社の境内には、古松老杉鬱蒼として茂り、風はいと涼しくし

て三伏の候といへども、夏なき里かと思はる、旅館萬松樓は公園より湧く鐵泉を引きて、館内に浴室を設け、客をして随意に入浴せしむ、若し夫れ、紅塵万丈の俗境に居る人、此の地に一遊せば、必ず塵外に立つの感あらむ、

近傍には、八本松、潮田城趾、黒塚、蛇松等見るべきもの多し、旅館は前記万松樓の外に松友館、藤の戸、公木樓等あり

青梅

青梅は有名なる青梅綿の産地にして甲州路裏街道に於ける第一の市街なり東京飯田町停車場を距ること十二里餘、多摩川の沿岸に位し土地高燥、水頗る清良なるが故に脚氣患者の轉地療養に適するとして青梅鐵道開通以來、東京より避暑する人多し、旅館は坂上屋、若狭屋を最上のものとす、夏時は多摩川にて漁る香魚何時にても食膳に

上る、青梅奈良漬、玉川海苔亦名物として知らる、

市街の西部に青梅山金剛寺といへる古刹あり境内の梅樹は將門手植の梅と傳へ枝幹頗る趣きあり淇園先生武藏古戰場記に、

金剛精舎古樹の梅あり四時實を結ひ熟すると雖ども緑りの色をかへず、青梅の名これより起る

とあり其の梅樹今尙存す、阪上屋の西に白瀧あり水多からざれども眼下に多摩川の清流を見おろし風光絶佳なり、萬年橋は白瀧の西、四丁計に在り長さ四十九間、高さ十五間、一本の柱を用ゐずして之れを架す、市街の北方に金刀比羅山あり登臨すれば富士、箱根、御嶽大山をはじめ遙に東京灣を隔て、總房の諸山を觀、俯瞰すれば多摩川の長流蜿蜒としてさながら白布を敷くが如く眺望佳なり、東京より此地に行くには飯田町より八王寺行の汽車に搭じ立川にて青梅線

四
 に乗替へるなり、飯田町青梅間汽車賃三等四十九錢、青梅停車場より阪上屋まで人力車賃八錢、若狭屋まで六錢なり、物價は上等酒一合金五錢五厘、鶏卵一個金二錢五厘、阪上屋の宿料は一泊四十錢以上とす、

萬年橋下萬年流 寒碧深潭水似油

倚遍欄干看不飽 夕陽黃葉玉川秋

(松 坡)

御嶽山

御嶽山は海面を抽くこと三千八百尺餘是亦避暑に好適の地なり、鎮座の神を少彦名命とす、境内老幹古木森々として林をなし盛夏の候といへども寒暖計八十二三度を越すことなしといふ、此の山には宿屋なし講員の紹介ある人は舊御師の家にて宿泊せしむ(前記青梅の

旅館にても紹介すべし) 登山するには青梅萬年橋を渡りて凡三里、阪道多ければ人力車(車賃六十錢)よりは寧ろ青梅を早朝に立ちて沿道の景色を眺めながら露を踏で行けば愉快ならん、

小河内温泉

小河内温泉は青梅より七里餘、多摩川の北岸に沿ふて西行し氷川、原村を経て行くなり、浴場は溪間幽邃の地にあるを以て眺望快潤ならずと雖ども閑靜なること此上なし、湯は塩類泉にして微温なれば更に沸して之を用る、切傷、うちみ、皮膚病に效ありといふ、青梅より氷川まで五里、車賃一圓六十錢位、氷川より車不通、馬あり、旅舎は原島小一郎外二三戸あり、宿料は五十錢以上、前記御嶽山及此の地の如きは魚類に乏しき處なれば旅客は罐詰の如き物を用意せらるべし、

武蔵御嶽山、小河内温泉

鹿の湯

青梅より二里平井村にあり東京より行くには福生停車場より下車し車を雇ふをよしとす湯は鹽澤山寶光寺といへる寺の境内より湧き出づる冷泉を懸笥にて浴槽に導き沸して用ふ、皮膚病に效あること妙なり温泉宿は一軒あれども家屋狹隘にして清潔ならず、されば宿主は遠からず家屋を新築して大改良を行ふの目論見ありと云ふ、青梅より車を通せず福生より車賃三十錢、宿料は二十五錢、晝飯十錢、

高雄山

東京飯田町より甲武鐵道に乗り、八王子停車場にて下車し(賃金三等金四十錢)同所より馬車に乗れば山麓淺川村まで一時間にして達すべし(里程二里)山腹に藥王院あり、聖武天皇天平年間の創建に係り、飯細權現を祀る、坂を登り盡せば社殿あり結構甚だ大ならず

といへども彫刻精にして、又丹青の美を極む、山は古松老杉森々として茂り、甲武の諸山双眸に集る、琵琶瀧といふあり、神經病を治すといひ傳ふ、蛇瀧は高さ二丈餘、共に水聲淙々夏尙寒し、地既に靜涼なるが上に蚊なく蚤なく極めて避暑に適するのみならず、秋は滿山紅に染みて、さながら錦を晒らすが如く、頗る美觀なり、たゞ山中一の宿屋なくして不便なれども、藥王院の僧坊にては乞はるゝまゝ、宿泊を許すといふ、肉食等の美味に飽くことは、望むべからざるもこれ亦旅行中の一興として一遊すべき所なり、近來は外國人の登山するものも多しと聞く、

大森海水浴

大森は品川の次驛にして本門寺、新田神社、穴守稻荷に參詣せんとする人の下車する處なり、八景園は停車場に近き一小丘にして近く

武蔵鹿の湯、高雄山、大森海水浴

東京灣を見遠く房總の諸山を望み頗る風光に富む海水浴場は停車場より數丁の海岸にあり毎年七月初旬海水開きを行ふ旅館兼料理屋は伊勢源、松淺、魚榮、八幡樓、村田屋、高知屋、鈴木屋等あり、宿料は金七拾錢より金二圓までとす、伊勢源は其中最も大なるものにして宿料も他より一二割方高し、停車場より海水浴場迄人力車賃金十錢なり、

池上

前記大森八景園の前を左折し西南二十七町にして有名なる池上本門寺あり、日蓮上人の開基にして又た其の永眠の地なり、毎年十月御會式を行ひ參詣の老若幾百千なるを知らず、蓋し關東屈指の大伽藍なり、旅館明保乃館は山門の前面にあり品川灣を見晴して景色よし且室内浴室を設け其の地より湧出づる鑛泉を沸して客の入浴に供ふ

湯は婦人病に效ありとか、大森より人力車賃金二拾錢、料理宿料は既に定評あり言はぬが花なるべし、

羽田鑛泉

世人羽田の名を知らざるものと雖ども穴守稻荷の在る處なりと云はゞ直ちに首肯すべし、穴守稻荷は勝負事に御利益ありとて諸方より參詣する者絶えず、近年鑛泉を發見し社内の講元に於ては之を沸し參詣者をして入浴せしむ、腦病及婦人病に特效ありといふ、旅館には要館、潮流館、羽田館、泉館あり皆館内に鑛泉浴室を設く潮流館は海岸に海水浴場を設けたれども元來此の海岸は水清からざるを以て海水浴場としては適當ならず、要館は淺草の質屋某の所有にして多く此のあたりの地所を有し客室は最も海に近き處にあり手廣くして諸事整頓し鮮魚にも乏しからず、只其新開地たるが故に日光を遮

武藏池上、羽田鑛泉

ざる程の大樹木なきを惜むのみ、大森より一里二十五町車代三十五錢、舟賃十二錢、宿料七拾錢以上色々あり、講元は一週間二圓五十錢の定めなり、

金澤

武藏國久良岐郡の南端にありて横濱を距ること四里、此地に赴くには横濱より根岸、杉田、富岡、洲崎を過くるは順序なれども旅客の都合により鎌倉より行くも亦便なり里程二里十町、途中切通の嶺二十町を徒歩する外は人力車通ず、此の地東南に海を繞らして夏島、烏帽子島横り後は山を自ふて風景絶佳、昔巨勢金岡此の地に來りて其景を寫さんとせしが叶はずとて筆を投じけりとかや、されば此處を筆捨山ともいふ、明の心越禪師は其景色支那杭州の西湖に似たりとて八景を撰し金澤八景とて名高し、即ち洲崎の時嵐、瀬戸の秋月

小泉の夜雨、乙瀬の歸帆、稱名寺の晚鐘、平瀧の落雁、内川の暮雪、野島の夕照、

稱名寺は龜山帝の敕願所にして有名の古刹なり其西北の山上に能見寺といへる禪宗の草庵あり、金澤の景を見んとする者は能見堂に上るをよしとす、所謂八景の奇は能見堂に集ればなり、横井也有の句に、

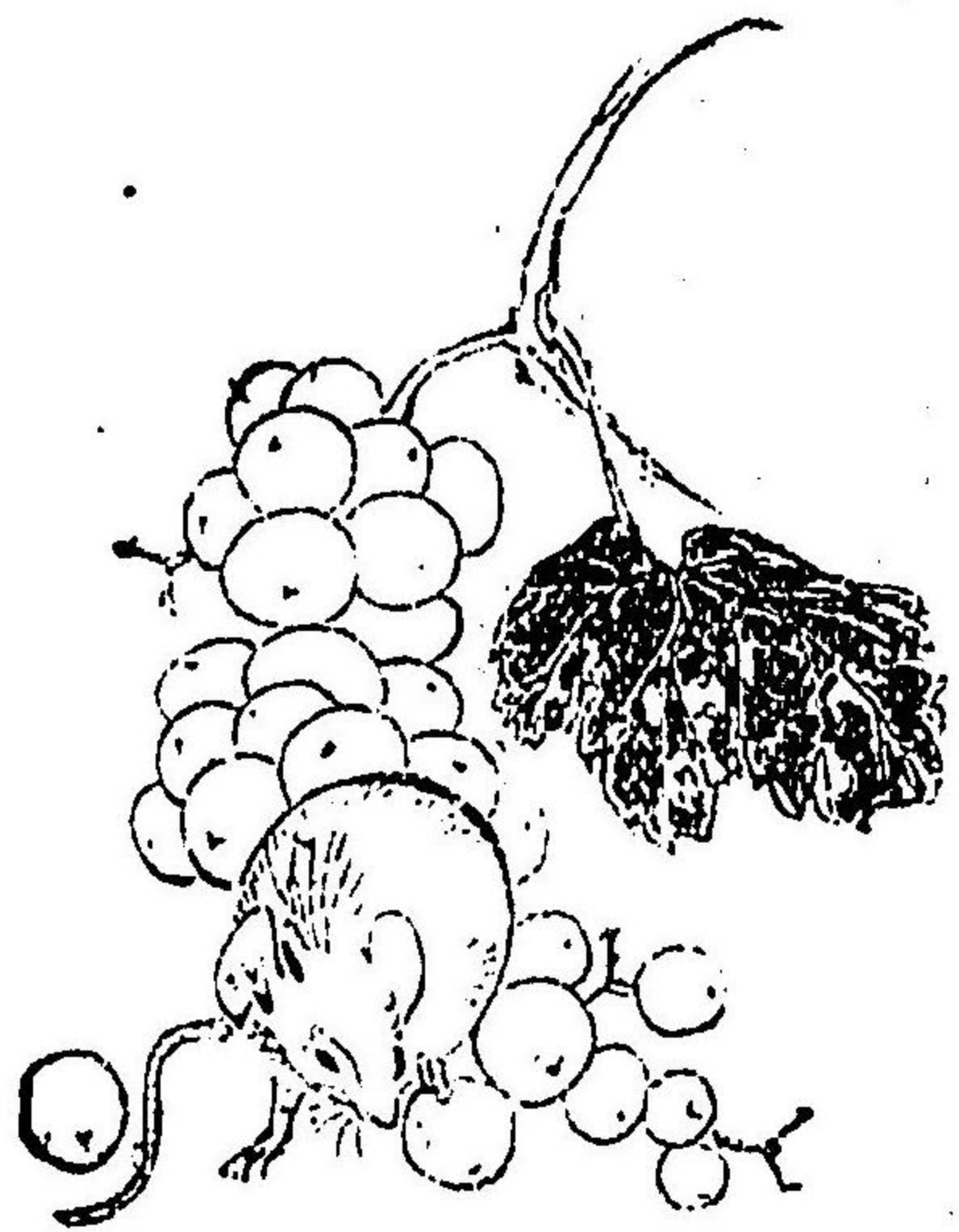
能見堂といへるより八景を見わたす奇絶の勝景言葉に
のべ難し折からうちしぐれしに

八景のうち二つ三つしぐれけり

九覽亭は鎌倉建長寺に屬する金龍院の境内にあり、八景と能見堂とを併せ見るを得る故に此の名ありといふ眺望に富めること能見堂に譲らず、

武藏金澤

瀬戸の橋畔に料理屋あり千代木東屋とす眺望に富む、
泥龜新田の牡丹、名あり花時來遊する人多し、



相模國

鎌倉

鎌倉は昔し源氏の覇府を開き志所にして、其後北條氏の據りて以て
天下を制御せし所今は東鎌倉西鎌倉の二村に分る 前は海、後は丘陵
を負ひ東は金澤に通じ西は七里ヶ濱を過ぎて江ノ島に至るべし、古
へ繁華の地たるたけありて古蹟の見るべきもの多し、左に其の重なる
ものを擧ぐれば、

鶴ヶ岡神社は鎌倉停車場(新橋より三等金四十九錢)近くにあり國幣
中社にして應仁天皇神功皇后仲媛神を祭る、康平六年源賴義始めて
由比ヶ濱鶴ヶ岡に勸請し建久四年源賴朝此の地に移して鶴ヶ岡八幡
宮と稱せり、正面に神樂堂あり、石階の右傍に仁徳天皇を祀る宮あり

相模鎌倉

り、靜の白雲蹈み分けて入りし人を慕ひ頼朝の前をも懼からず想夫戀を誦ふて一曲の歌舞を演せしは此の處なり、白旗神社は源頼朝を祀れるもの豊太閤の好漢といつて木主の背を拵ちしは茲に置けるものなり、石燈の西に銀杏樹あり高さ數丈昔し鶴ヶ岡の別當公曉の源實朝と殺せしはこゝなりと傳ふ、本殿は縦九間横三間にして樓門には良恕法親王の親筆八幡宮の額を掲ぐ、藏むる所の寶物武器は觀覽料を納めて觀るを得べし、

鎌倉宮は鶴ヶ岡八幡宮の東北五六町の處にあり明治二年七月の建立に係り大塔宮護良親王を祀る、社殿崇高を極む、社背に深窟あり深さ一丈餘底は疊十枚を布くに足る、建武二年七月親王讀經せられし淵邊義博窟に入る親王經を擲ちて起たれしが義博は刀を抜き弑したる所なり、嗚呼親王にしてかゝる所に幽閉されたるを見れば誰か涙

を催さざる者なからむ、

頼朝邸の址は八幡宮の東數町金澤道の傍にあり今け全く農夫の鋤を入るゝ所となりたれど東御門西御門の字の存するは確に東門西門のありし證なるへし、權勢隆々たる頼朝の邸も既に田圃と化したり今日頼朝の如き權勢に富める者も異日其邸宅草莽々たることなきを保すへからず、此の地に遊ぶ者感慨に堪へざるものあらん、北條氏邸の址は寶戒寺の境内にあり、北條氏九代の間茲に居りしなり、滅後一族の遺骨は茲に葬られて寶戒寺成る、公方屋敷の跡は淨明寺の東にあり、足利時代の關東管領の住せし所自ら僭して公方と稱せしより公方屋敷の名あり、滑川は上流を胡桃川といひ公方屋敷の前に來り、初めて此の稱あり、昔時青砥藤綱夜金十文を河に落し五十文を以て炬を買ひ拾ひ取

りしといふは實に此の河、

荏柄天神社は頼朝邸址の東北にあり本社には菅公東帶の像あり、長谷寺は長谷にあり長二丈六尺の十一面觀世音は本尊にして春日佛工の作、

英勝寺は扇谷にあり、門には後水尾天皇の宸筆英勝寺の三字の額を掲ぐ、境内は太田道灌の宅地にして英勝院念佛道場を開きしが中頃にして廢れしを水戸中納言頼房の女、尼となりて此の寺を再興せり、西に源氏山を負ひて幽靜なり、佛殿に唐の陳和卿の作に係る釋迦佛を安置す、

建長寺は小袋坂にあり禪宗にして鎌倉五山の一なり、北條時頼入道の創建する所にして宋の僧大覺を開祖とす、門額巨福山の三字は寧一山の書する所、應行作る所の一寸五分の地藏菩薩あり、

相 模 國

圓覺寺は建長寺の西南にあり、弘安五年北條時宗の創立する所にして宋の僧佛光禪師の開く所なり、寺門は宋制にして後光嚴天皇の宸筆を掲ぐ、境内には岩窟觀音、開山塔、佛日庵、坐禪窟、虎頭岩等あり、北條時宗、貞時、高時の書、及、足利尊氏自筆の法華經、南山自贊の畫像等あり、

長壽寺は龜ヶ谷にあり、足利基氏が尊氏の冥福を祈らんために建てたるものにして尊氏東帶の像を安置す、

壽福寺は英勝寺の南にあり、源頼義、義家東征の際暫く此の地に留まりしといふ、後に畫窟なるものあり、一丈餘の岩窟にして牡丹の彩色をなせり、佛殿には陳和卿作る所の釋迦佛を安す、畫窟内には頼朝及政子の塔あり、寺門の東南觀音山に登れば望夫石あり、傳へ曰ふ畠山重保軍に由比ヶ濱に趣かんとするに當り其妻別離に堪へず

慟哭の餘り此の石上に死せりと、

光明寺は亂橋材木座にあり、記主禪師の開祖にして四條帝の頃北條經時佐介ヶ谷に創立せしものを寛元元年今の地に移せり、後花園天皇宸筆の天照山の三字を額として掲ぐ、

大佛は長谷觀音の北にあり、高さ三丈五尺、膝の回り五間半、青銅の盧舍那佛にして建長年間の鑄造に係るといふ、

星月夜井は極樂寺切通しの前にあり、傳へいふ、昔井中に靈光あり里民怪み見れば水中より虚空藏の像顯れしと、信偽知るべからず、今は老嫗錢を取りて水を賣る水極めて清冷、

景清土牢は化粧坂へ上る路傍にあり、牢内三四疊を敷くべし、昔し景清鎌倉に降りし時幽憤湯水を絶ち此の中に死せりと、景清の娘、父の冥福を祈らんとて窟のほとりに向陽庵を建てしが今は無し、

滿福寺は腰越村にあり、昔し源義經の平氏を平けて鎌倉に入らんとし此の地に來りしに、梶原景時の糺により、入ることを許されざりしかば、辨慶をして陳疏の書を認めしめしは、此の寺なりといふ、硯の池は、辨慶の汲みて硯の水として磨りたるもの、辨慶腰掛石は彼が腰掛となせし石、

鎌倉の名所古跡一々數へ來らば尙數頁を費して足らざるべければ先づ此の位の處にて筆を擱き、扱本書の主眼たる海水浴場を紹介すべし海水浴場は鎌倉停車場を距ること南およそ十三町、青松白沙の間を撰びて設けられたり、其の海濱院は西洋風の建築にして宏壯なるものなり、温浴は機械仕掛にて館内へ潮水を導き四時入浴することを得、來り遊ぶものは重に外國人なり宿料三圓以上、

普通の旅館には雪の下の角屋正左衛門、丸屋作太郎、伊東右衛門及び

長谷の三橋與八等を名あるものとす、

鎌倉道中笠島

島や来てさふ里のゆふしぐれ

ぬれぬやどかす人し有さや

澤庵

鎌倉山古跡

建久討強多變寺

寺終廢壞又平蕪

千族萬化不留跡

昔日英雄骨又無

江の島

江の島は鎌倉の西にありて八幡前停車場より七里ヶ濱を経て西方二里許の海中にあり、東は七ヶ里濱由井ヶ濱等の海岸に臨み西は遠く富士山を望み南は大平洋にして一顧せば房總豆相の好景に飽くを得べし、島中に三祠あり邊津中津奥津といふ、本宮は窟の内にあり、

窟口は南に向ひ廣さ一丈餘、内に弘法大師の作に係る辨財天の像を安置す、左の橋を渡りて窟内に入れば幽暗にして常に燈火を點じ鬼氣人を畏ふ、入れば入る程窄く四十餘間にして窟分れて二つとなり奥に兩部の大日如來を安す、西には日蓮上人の座跣石あり、上の宮は仁壽三年慈覺大師の創建する所にして辨財天を祭り、下の宮は建永元年良眞上人の開基に係り源實朝之を創建せりと傳ふ、邊津宮の後に宋國より傳へし古碑あり、

島の南端に見淵あり、昔建長寺に自休藏主といふ僧あり辨財天へ參詣せる時鶴ヶ岡相承院の見白菊を見て心動き身の程も忘れて説きけるに見は中々従ふへくも見へざりしが、さりとて亦其情の切なるに感むけん扇に二首の和歌を書き殘して海に投せしが、後自休來りて先ちたる見の早や水の泡と共に消えたるを見て身を沈めて跡を追ひ

相模江の島

たりといふは此の淵、

三三

島の西に魚板石といふあり、平にしてさながら席の如く座して江の島の風景を望むを得、石上淡齋の詩を刻す、

藤澤に遊行寺あり、寺は時宗の本山にして清淨光寺といふなれども、代々の住職を遊行上人と稱するを以て遊行寺の名あり、

稻村ヶ崎は極樂寺切通しを行けば左に見ゆ、新田義貞が北條高時を伐ちし時、刀劍を投して勝利あらんことを祈りし處、

腰越は七里ヶ濱近くにあり、源義經の平氏を平けて鎌倉に入らんとし梶原景時の纒により頼朝に拒まれといまりて陳謝せしは實に此地、

東京より行かんには新橋より滌車に乗り藤澤停車場にて下車し(三等滌車賃三十二錢)停車場より一里十八町にして達す、人力車賃は

金二十錢とす、旅館は金龜樓、讃岐屋、岩本樓、恵比壽屋、北村屋等あり、就中金龜樓は客室清潔取扱も懇切にして宿料は一泊金四十錢より一圓五十錢とし晝餐料は金二十錢より一圓までとす、

此の地は概して生産力に乏しく、大抵の物は他より供給を仰ぐを以て物價は東京に比して高價なるを免れずといへども大磯などよりは大に低廉なり殊に心神を養ふ點よりいふも俗化されたる彼れに優ること萬々なり、貝細工は精巧を以て聞ゆ遊客の土産として頗る妙、

白菊と信夫の里の人間は

白菊

思ひ入江の島さ答へよ

白菊の花の情のふつき海に

自休

奥に入江の島さうれまき

片瀬海水浴

相模片瀬海水浴

三三

唐が原、砥並が原、片瀬、腰越、袂をも濡らす浮世の露けさを、といろは文庫の名文に見えたる相州片瀬も酒匂と同じく交通の便開けてより將に世人の記憶を逸せんとするを近來流行の海水浴のおかけにて再び世にうたはるゝこととなれり、この地には日蓮上人大難の一ヶ所たる龍の口、其他大庭景親、新田義貞朝臣等の古跡見るべき處多し、昔時撫子の名所なりきといふ唐土ヶ原もまたこの近傍にあり、景色は西に富士、東に三浦三崎、前に江の島を見、中々面白い旅館を片瀬館といふ、料理は和洋いづれなりとも客の好みに應じ、調進すべし、宗尊親王の御歌に、

歸り來てまた見んこさもかた瀬川

潤れる水のすまぬ世なれば

逗子海水浴

逗子は横須賀支線鐵道の鎌倉より第二の停車場の西數町を距る一帯の海岸をいふ、四邊の光景瀟洒幽雅にして俗塵を厭ふ遊客の杖を曳くに適す、近年は此地に遊ぶもの多く鎌倉の如き繁華はなきも暑中などは附近の農家に至るまで避暑の客を以て満たすといふ、石黒軍醫總監は昨夏此の地に静養して頻りに其好海水浴場たることを稱賛せしといふ、この近傍には尊き御方の御用邸をはじめ、貴顯の別荘多し、

旅館にして割烹店を兼ねるもの數軒、養神亭は頗る好評なる旅館にして貴紳の宿泊にも適す、停車場より僅に十町、車賃は八錢（風雨の際は二三割増）海岸の好位地を占めて眺望に富み、清涼の福地に遊ぶの感あらん、物價は概して他の海水浴場鎌倉の如きに比して廉なり、葉山の日蔭の茶屋は景勝の地を占め、停車場よりの人力車賃は

相模逗子海水浴

十二錢雨天の時は十五錢、宿料は一泊上等金一圓二十錢並金六十錢
晝食料は金二十五錢より六十錢までとす、外人の宿料は一泊金二圓
以上の定めなり、

白鷗容典一海青

遊歎浮杯酒亦靈

散髮海樓人嘯傲

天風吹淨發神亭

學 鷗

松輪海水浴

松輪は相州三浦郡の南端にありて西は三崎に連り劔崎の燈臺に近く
前は安房の鋸山と相對す、東京越前堀より漁船に乗り、七時に發せ
ば五時間にして達すべし、船賃金二十錢なり
海水浴旅館は松輪館といふ、客室數十あり、百名の客を宿せしめて
自由なり、

相 模 國

鷗ヶ沼海水浴

鷗ヶ沼は藤澤停車場を距る南一里、片瀬、江ノ島より濱つゞきの海
岸にして遙に相房の翠巒を望むことを得、眼界頗る寛なり、地は砂
地にして松樹茂り旅館所々に點在す、鷗沼館、三升樓、東屋、待潮
館その大なるもの、別荘亦多し、此地は近年開けたる所なれども水
清く浪穏かなれば婦人といへども危険を感ずることなし、

よもすがら海士の舊屋のこゝろして

枕に近き波のをさかな

雅 子

大津海水浴

横須賀停車場より南二十町の海濱にして左に本牧、右に觀音崎を臨
み風光頗る佳なり、曾て第一高等學校の海水浴場となりしことあり
きといふ、海水甚だ清澄にして人身に適す、

相模松輪海水浴、鷗ヶ沼海水浴、大津海水浴

二七

箱 模 國

茅ヶ崎海水浴

大磯の便利あるにわらず、江ノ島の奇景あるにわらずと雖も、團州の別荘あるが爲め俳優の往き來多きを以て茅ヶ崎の名は、はやく既に都下の婦女子の間に喧傳せらる、其海水浴場は停車場を距る八丁の海岸白砂青松の間にあり、旅館に茅ヶ崎館、中村樓(江東中村の支店)あり、今茅ヶ崎館の宿料を聞くに、上等八十錢一定なり、停車場より茅ヶ崎館まで車賃八錢、

大磯

大磯海水浴場は大磯停車場を距る南方五六町の海濱にあり、南は大平洋に面し水天渺茫、西には富嶽、東には繪の島を望み風光明媚、雲にわけ波にしらみて朝なく

きのふに似たる海山もなし

とは能く此の地の實境をうつせるものなり、昔し時めきし鎌倉武士が風流を極めしは實に此の地なりしが、暫くして時勢は無残にも寒村荒驛と化せしめしものを明治九年に至り軍醫總監松本順此邊の湖水の人身に適するを見て海水浴場を設けしより年一年と繁華を増し今日は東京附近に於ける最も華奢なる最も贅澤なる海水浴場となり以前に増して盛なる巷とはなりぬ、

郡役所あり警察署あり郵便電信局あり裁判所出張所あり、玉突場、大弓店、新聞雜誌店等、何一つ不自由を感ずることなし、地の東に延壽寺あり、虎子石なるものあり、石は楕圓にして高さ二尺ばかり面に鏃の痕あり、傳へ云ふ曾我十郎此の地の妓虎御前と相親む、工藤祐經人を派して虎の家に至らしめ矢を放ちて祐成を殺さんとせしに矢は石に當りて祐成は無事なることを得たり、故に十郎

相模茅ヶ崎海水浴、大磯

相

橋

國

身がはりの石ともいふ、
 東して兩側松の並木ある所是むかしの化粧坂の蹟にして、更に東行すれば有名なる花水の橋あり、東海道名所記に、
 花水の橋長さ四十三間あり大磯の長者が跡、今にかまどのかたばかり残り、むかし關東の諸大名にこびて世を渡りしが今は絶はて、窻のあとのみのこりて論語の文にかなへるにや、その屋漏にこびんよりは、むしろ其かまどに媚びよといへるは此事か
 今は其かまどのあどだに無し、花水の橋また世と共に變りて、あはれあやしきペンキ塗りの橋となりけり、彼の一時俗氣を以て仙境をけがすとの世難を受けし月ヶ瀬橋と一對といふべきか、
 小磯は大磯の濱つゞき三四丁の所にあり、蒼鬱たる松樹林をなし境あつから閑靜なり、其嶋立つ澤の古跡には西行の木像あり、文覺

相

橋

國

上人の刻せしものにして側に虎子堂あり、虎御前の像を安置す西行の手蹟、竹杖、葦の床柱等は嶋立庵の寶物にして乞ふに任せて人に觀せしむ、高麗山の半腹に梅樹數千株あり、俯して大磯の全景を見るべく遙に豆相の峰巒を見るべし、山頂に高麗神社あり、山下に高麗寺あり、
 大磯の旅館中大なるものは招仙閣、禱瀧館、太田樓、甲喜樓等とす外に松林館あり新橋花月の支店にして夏季のみ開店す、

於朝於夕浴煙波

海國從來清氣多

金匱奇藝難及處

醫來肺腑百年痼

(羽 峯)

國府津海水浴

箱根、熱海、小田原若しくは伊豆山に赴く人は國府津停車場より下

相模國府津海水浴

車せざるべからず、地勢は北に山を負ひ前面は遙に相模灘を隔て、
 總房の連山を見、海面より來る風は爽涼にして海氣を含み、頗る人
 跡によし、海濱の小丘唐津は親鸞上人そのむかし唐土より一切經を
 携へ歸り給ひしとき着船し、處なりと傳ふ、旅客は是非一訪せよ、
 唯其古跡たるの故のみならず、眺望の快濶なること、蓋し旅情を
 慰むるに足るものあらん、近傍の中村といへる處は曾我の祐成、時
 致兄弟の故郷なり、されば此邊二子の舊跡少なからず、
 名物には密柑あり、海水旅館は葛屋國府津館等とす、宿料は五十錢
 以上種々客との相談によつて定むべしとなり、

酒勾海水浴

酒勾は國府津より小田原に到る途中に在り、昔時の東海道中所謂、
 蓮華臺越の一にして廣く世に知られたれども、東海鐵道開通以來一

時世人に其名を忘れられ居りしが、元來此地は地質沖積砂層より成
 るを以て飲料水の性質極めてよく氣候も溫和にして空氣清潔加ふる
 に東南相模灘を控へ、北方は廣濶なる田野を越えて遙に足柄山を望
 むなど景色なかなか良き故、近來別莊を建つるもの少なからず、且馬
 車鐵道の便もあれば、かた／＼來遊する人追々多くなるは、嬉れし
 きことなり、東海道名所記に、

酒勾川左のかた一町ばかりにして、海に入なり、追はぎ多し、夜
 ふかに出べからず、一色町はづれに、はしあり、長さ卅間、ふる
 き發句に

大磯でちぎらば虎が美人草

大磯の松風さむしとらの時

樂阿彌こゝは、追はぎ多き所なれば、夜道はあぶなき事なりとい

相模酒勾海水浴

へば、男とりあへず

大磯は虎ふす野へか尾をふみて

あやうきみちのたどへにそする

と見えたり、されど明治の今日は中々安心なものなり、旅館を松濤館といふ、十餘の貸別荘いづれも小奇麗なり、賃賃は一ヶ月八圓より四十圓位まで室の大小によつて區別あり、

小田原海水浴

昔は北條氏によりて顯れ、今は伊藤侯の蒼浪閣によりて屢々其名を耳にする相州小田原、其海岸は波靜にして海水浴に適するとて先年此所に海水浴場を設けたり、さすがに適當の避暑地と謂ふべし、其景色は酒匂と大差なし、古跡には小田原城趾、報徳神社、松原神社、石橋山等近傍に散在せり、名物は有名なる虎屋つらやの外郎つらやをはじめとし

相 模 國

相

模

國

漬物、しほから等あり、また小田原石は昔江戸の水道に用ゐる爲めに輸出せるものなりしといふ、

旅館には ^{養生} 館、 ^能 屋、小伊勢屋、 ^{みよ} 屋等名あるものなり、鷗

盟館は箱根塔の澤、環翠樓の支店なりとぞ、國府津にて十三錢を投ずれば鐵道馬車は四十分間にして小田原まで運び呉るゝなり、

夕立のはれ行く海の背さかな

美 粉

箱 根

旅客新橋より汽車に乗り國府津にて下車し鐵道馬車に乗れば一時間にして湯本に達すべし、

湯本温泉は湯坂山の麓より湧き其色透徹して底を見るべく冷温五體に適す、温泉宿の重なるものは福住九藏小川萬右衛門にして他に旅館多し、西南に金龍山早雲寺あり北條早雲の建立する所にして北條

相模小田原海水浴、箱根

三五

氏五世の墳墓あり、

湯本より溪に沿ふて登ること五六町にして塔の澤温泉あり、温泉は皆湯坂山の麓又は勝驪山より湧き出づるものにて温泉宿は玉泉樓(堀貞藏)玉の湯(福原遠藏)環翠樓(鈴木善左衛門)一の湯(小川鎌太郎)藤屋(安藤徳治)福住樓(長谷川まつ)の六軒あり、塔が巖に阿彌陀寺あり、寺を少し離れて小丘あり明の朱舜水曾て此の地に至り景色の美なるを愛し驪山に勝るとて勝驪山と名づけしといふ、

宮の下温泉は底倉村字宮の下にあり地は海面を抽くこと一千二百二十尺、鷹の巢の山を負ひ早川に臨み、眺望に富めること七湯中第一なるべし、郵便電信局村役場等あり、温泉宿は富士屋奈良屋の二軒あり、

堂々島温泉は底倉村字堂々島にあり地卑くして眺望に富まざれども

相

模

國

相

模

國

境頗幽靜なり、温泉宿は近江屋大和屋江戸屋の三軒あり、

底倉温泉は底倉村字底倉にあり、温泉は神靈湯萬壽湯靈仙湯の三ツに分れ温泉宿は梅屋牧太郎仙石屋丈助外一軒あり、蛇骨川の上流に蛇骨に似たる奇石を産す、昔し秀吉の浴せしといふ太閤風呂あり、傳へいふ昔し新田義興義兵を起し奥州にて戦ひ敗れ、走りて此の地の温泉の金創に奇効あるを聞き、入浴を試みしける程に暫くにして癒えけるが足利氏の知る所となり太刀を提げ裸體にして戦ひ討死せりと、されは村人の義興を惜むこと今日に至るも一入なりとぞ、

小涌谷温泉は底倉村字小涌谷にあり泉質は硫氣と鐵分とを含み屢麻質斯貧血症に特効ありといふ、温泉宿は開化亭三河屋の二軒、

木賀温泉は仙石村字木賀にあり泉質鹽類泉にして上の湯仙石新湯菖蒲の湯岩の湯等にして温泉宿は龜屋伊勢屋の二軒あり、

蘆の湯は蘆の湯村にありて南に二子山峙ち西に冠ヶ嶺聳へ海面を抽くこと二千七百六十尺、温泉は仙液湯達磨湯の二所に分れ温泉宿は紀伊國屋松坂屋吉田屋あり、泉質は多量の硫黄を含む、健麻賓斯、皮膚病、依卜昆里亞、邊斯底利等に特効あり、箱根驛に往く途中に曾我兄弟及虎の墓又多田滿仲の墓もあり、外に仙石下の湯姥子温泉湖尻温泉等あり、大湧谷は一に大地獄と稱し小湧谷の西北にあり、半腹より頂上に至る間硫氣燃へ熱水迸り其近くは土焼け草木枯れ地皮脆弱となり誤りて踏めは半身は焦熱地獄の苦患を見るへし、頂に閻魔堂あり上れば眼界甚寛、

ふものは是れ、「玉くしげ箱根の山の峯ふかくみづうみ晴れてすめる月影」とは茲を詠せるなるべし、湖畔の箱根神社は瓊々杵尊彦火々出見尊を祭り天平寶字元年の創立に屬し蘆の湖の東岸にあり、昔しは金剛山東福寺に屬し、孝謙天皇を初め代々の天皇幣帛を納めたまひ阪上田村鷹源頼義源頼朝、北條時政等英雄豪傑の士表矢を獻じ社殿莊嚴を極めけるか今は大に頽廢せり、曾我兄弟を祀れる曾我祠あり、箱根驛は箱根嶺上にあり蘆の湖の南に當る、西端は即ち古へ箱根の關のありし所にて人馬織るか如く往來頻繁なりしも今は僅に斷礎を見るのみ、宿館の大なるものを土生屋四郎右衛門、石内彌平大、といふ、地は風光に富めるを以て夏時避暑に赴く者多し、乙女峠は仙石原の西方にあり頂上に上れば富士山は前に聳へ眺望頗

る好し、箱根より登岳を試むる者は此の時を越ゆるを可しとす、早川は源を箱根の湖に發し早川村に至りて海に入る「早川の瀬ぎり危き船渡りそがひに向へ道遠くとも」と詠せし如く實に水流急にして兩岸は絶壁連る、朝日橋玉の緒橋千歳橋は皆此の河に架するもの、

箱根の名産として世に聞ゆるものは挽物細工寄木細工とす、此等は湯本細工の稱あれども今は多く宮ノ下邊にて賣る、

都出でしけふ越え來ればうたにきく

箱根八里はみな秋の風

玉くしげは、これの山の明方に

雲をふみても我はゆくらん

夏は唯名のみなりけり青の湯に

物する人よ給もてゆけ

鐵幹

信綱

嘉朝

眞鶴海水浴

眞鶴港は小田原より熱海に到る沿道、海中に突出したる所に在り山を負ひ海に瀕し風景佳なり、海水浴場は近年の開設にかゝるを以て其の名甚だ高からずと雖ども地は源右府の逸話を傳へ亦是れ好個の避暑地なりとす、

旅館を眞鶴館(櫻井彌三郎)といふ、東京よりの順路は東海道線國府津停車場にて下車し、それより電車にて小田原早川口に至り人車鐵道に乗替へ眞鶴に達す、此の間六時間を要し旅費は新橋より總計壹圓十四錢とす(新橋國府津間三等金七拾錢、國府津小田原間十三錢、小田原眞鶴間三十一錢、)

眞鶴もみぢひき冬の日脚かな

也 有

雨餘庭草綠將迷
蟻也唯肝何處接
幽咽一蟬驚出樹
殘聲曳過夕陽西

(星巖)



伊豆國

伊豆山

走湯の神とはうべも言ひけらし速きしるしのあればなりけり、と藤原兼房の詠じ、所謂はしり湯とは伊豆山温泉の稱なり、東海道名所記に、

伊豆の山は、走湯山ともいふ、こゝにまします御神をば、走湯權現と申奉る、むかしかまくらの右大將、伊豆はこねを信じ、つねに二所參詣をいたし給へり、此所に出湯あり、石はしるたきの如くなれば、走湯とは申すとかや、

とあり、泉質は明礬、硫黄を含み、胃病、腦病、れうまち、脚氣、皮膚骨節諸患、神瘧痛、其他婦人病に特效ありといふ、地は伊豆山

伊豆伊豆山

を負ひ、相模灘に臨み、東は總房の諸山に對し、南は伊豆群島を雲烟の間に眺め、眺望の快濶なること熱海をしのぐ、近傍遊覽すべき所は、役の行者の松、初島、日金山十國峠、般若院大師、甘祿園伊豆神社等數多あり、古歌に、

五月關こゝみの森にほととぎす

人しれずのみ鳴き渡るかな

といへる古々井の森は此伊豆神社の境内のことにして、いにしへは郭公の名所なりきとかや、氣候は大暑といへども八十三四度を超へず、酷暑にても五十四度を降らずといへば避暑避寒どもに好適の地といふべし、旅館に相模屋あり、浴室は三等の槽を設け之れを冷温熱の三分ち、また別に貸切浴室、海水温浴（二重構造にして中央に海水を入れ周囲より温泉を以て温むるもの）等の備あり、又湯瀧

は雄瀧、雌瀧の二に別ち雄瀧は勢強くして強壯者の浴するに適し、雌瀧は勢弱きが故に病衰者又は婦人の浴するに善し、止宿料は一週間三圓五十錢より七圓までとし外に自賄と稱して三食ごとに注文せる品のみを調進すまことに手軽にして便利なる方法なり、此方法に依れば一週間二圓二三十錢位にても足るべし、魚類は多くして新鮮、殊に鮑はこの地の持産なりといふ、

東京より往くには國府津停車場にて下車し人車鐵道に乗じ小田原を経て行くが順路なり、此間三時二十七分の時間と六十六錢の人車鐵道賃とを要す、若し海路をとらんと欲せば東京靈岸島出帆の汽船にて熱海に到りそれより人車鐵道に乗ずるをよしとす、熱海伊豆山間十八町、人車鐵道賃七錢なり熱海、小田原、國府津間また日々二艘の汽船往復す、

伊豆伊豆山

熱海

熱海といへば兒童も能く其温泉場たることを知る、地は伊豆國田方郡にありて日金山の東麓にあり三方山を負ひ一面海に向ふ故に避暑に適するのみならず亦冬時寒を避くるに適す、温泉多しといへど寒暑に適するは熱海を措いて他に稀なり、舊記に曰く仁賢天皇四年蚊島某罪あり獄中に死す帝その屍を熱海に投せしめたまひしに其時初めて温泉湧出して魚介盡く死せりと、説の信偽保すべからずといへども亦以て其開けしことの早かりしを知るに足る、

小田原より豆和人車鐵道に乗りて午前六時に發せば米神江浦眞鶴吉濱門川伊豆山を経て九時〇五分に熱海に達すへし、其實金六十錢なり、又熱海を中心として各地への里程を記せば、静岡市へ二十三里八町沼津へ七里三十町三島へ六里十五町輕井澤へ二里七町修善寺へ

伊

豆

國

伊

豆

國

は八里二十八町下田へ十八里十八町伊東へ五里二十町小田原へ七里國府津へ八里十八町伊豆山へ十八町湯本へ八里餘東京へ二十八里十八町とす、

昔は熱海七湯と稱して大湯清左衛門湯小澤湯風呂の湯河原湯太郎湯野中湯のみなりしか地を穿つ二三尺忽ち温泉の湧くを以て今は増して古屋の湯鱗の湯水の湯伊勢屋の湯尾張屋の湯等合せて二十餘湯となれり、泉質は、食鹽泉に屬し脚氣水腫子官病氣管支加答兒腺病等に特效あり、二十餘の内最も奇なるは大湯にて一晝夜に三々時を遊へず湧く、時には長湧することもあり、例へば午前一時に湧き初めば十二時まで湧き續き午後一時に止む、それより一滴も湧かず翌日より湧く、其初め湧くや蟹の泡を噴く聲して少量湧き暫にして沸騰するや唧筒にて水を澁く如く熱湯迸り出て、近きあたりは熱き雨の

伊豆熱海

降る如く其音や凄し

大湯の傍に噲氣館あり故岩倉具視公此地の噲氣患者に効あるを認め同志と共に建設せるものにして結構宏大中央に機關を設け沸騰の度毎に患者をして呼吸せしむ、醫學博士中濱東一郎氏浴醫長たり時々出張して診察せらる、

梅園は熱海を距る十町許の山中にあり、今を距る十五年前故茂木惣兵衛其他の人に依りて開設せられ梅松櫻等數万株を植付けしか今は成長して毎年十二月中旬より三月中旬までは花の世界となり又月夕瀬等をいふものあらざるなり、

温泉寺は新宿にあり、南朝の忠臣藤原藤房此の地に來り世を遁れて佛門に入り授翁和尚と稱へ當寺の開祖となりたりと傳ふ、境内に藤房手植の松とて今尙存せり、

伊

豆

國

伊

豆

國

魚見崎は南は伊豆七島を望み東は房總武相の風景双眸に集る、殊に夜景に至りては人をして快哉を呼はしむ、漁火點々相照して螢ならぬに飛ぶは何等の奇ぞ、

錦浦は念佛山の麓、曾我濱にあり、兒島、烏帽子岩、碁盤石、覆石等の奇岩怪石斷續して頗る奇觀を極む、

海水浴場は魚見崎の下及八幡前横磯等にあり、海水は能く人身に適し且清潔なれば夏季游泳を試むる者亦多し、

柳北漁史嘗て熱海に遊び記あり其一節に曰く、

唯一の闕點と謂ふへきは市中に牛肉を鬻く者なき是れなり牛乳は毎朝發賣すれども牛肉店は全く廢業す漁史僅に鰯詰の肉を以て滋養に供す古の唐人が魚と熊掌と兩得し難きとか何とかいひたりき漁史も今魚と肉とに於て其一を欠くを嘆せんとす噫熱海も未だ村

伊豆熱海

の字を下すを免れざる乎蓋土人十中の七八は猪牛を食はざる人種
ならん、

柳北漁史をして今の熱海を見せしめは、昔日の熱海にあらざるに驚
かんのみ、

温泉宿の重なるものは、富士屋、相模屋、真誠社、對孝樓、氣象萬
千樓、小林屋、鈴木屋、香露館、阪口屋、尾張屋、高砂屋、鱗屋、
山田屋等とす、

伊東温泉

伊豆國田方郡伊東村にあり、南西北の三方は天城山箱根山を負ひ東
方は海に而し、松川其中央を流る、東三里を隔て、初島を白波の間
に望み房總の遠山を水天髣髴の間に認む、左は宇佐美の大崎伊豆山
真鶴崎にして右は亭午島波濤の間に横る、灣上常に無數の船舶碇泊

して閑鷗の浮ぶ如く、真に好個の避暑地なり、

温泉はもと三源泉なりしが近世に至り發見して二十餘湯に及へり、
猪戸温泉は松原區猪戸町にあり、傳へ云ふ往時此の地は荒蕪に屬せ
しを野猪の負傷せるもの此の叢中に來り創の癒ゆるを見て初めて特
効の温泉あるを發見したりと、初めは浴客も少かりしか今は大に繁
榮の地となれり、泉質は鹽類泉に屬し無色透明無味無臭にして慢性
儂麻質斯疥癬等に効あり、

出來湯は松原區の西にあり源泉を榲湯といふ、寛永年中の發見に係
るを以て此の名あり、泉質は硫氣ありて刀傷及鳥獸の咬傷に効あり
傍に新湯と稱する温泉あり、後側に湯坪を穿ち牛馬の浴場とす、

和田温泉は伊東村玖須美にあり、上湯外湯大坂屋湯新湯の四泉あり、
痔漏打傷諸瘡儂麻質斯婦人血の道に特效あり、慶安三年始めて浴室

伊豆伊東温泉

伊

を開き御前湯と稱して江戸城に献上したりといふ、江戸にて伊東の温泉とて藥湯の名高かりしは此の温泉なりしともいふ、湯田温泉は岡區瓶山にあり、微温にして入浴に適せず、眼の湯は松原區辰の新田より湧く、眼疾に特効あり、外湯は混浴に供し内湯は客の入浴に供ふ

豆

伊東海水浴は伊東村湯川松原玖須美の海濱にあり、地は伊東の中央に位し、水清く浪穏にして好海水浴場なり、

國

伊東温泉近くにて尋ねて見るべきもの多し、伊東十二景は故濱野建雄の撰する所にして、瓶山の旭日、鎌田の炊煙、物見の孤松、田城の野興、初島の漁火、松川の逍遙、横磯の群鷗、停子の宿鶉、玖須美の社、松原の歸帆、音無の神事、五山の晚鐘とす、一々詩歌を以て其風景をうつせるものあれども茲に略す、

伊

豆

國

噴潮岩は新井區扇山海岸の洞窟なり、奇岩怪石に富み伏す者起つ者横る者千態万狀なり、傍の絶壁海に臨みて屹立すること三四丈其下潮の浸せる處に一の竇口あり口狭くして内容は廣く満潮に至れば波浪來去して竇口に激し潮烟を噴出すること數丈、其狀銀屑を散する如く水晶籬を捲くが如く奇觀言ふへからず、堀川春江の詩あり乍疑白虹迸又訝長鯨噴と實境を寫したるものなり、

日蓮上人の遺蹟、小室村川奈區にあり、弘長元年上人配流の際、寓宿せるに因り里俗之れを御岩屋といふ、

といろきが淵、源賴朝の子千鶴丸を沈めし處なりと傳ふ、

伊東祐道の墓、松原區地藏原村にあり眺望よき處なり、

河津祐泰の墓、對島村にあり、祐泰は安元二年十月赤澤山の下に於て大見小藤太、八幡三郎の爲めに狙撃せらる、今尙赤澤山腹に椎の

伊豆伊東温泉

古木あり是れ大見八幡の二人祐泰を射るために楯に取りたる木なりといふ、其他同村石脇島に手投石あり、富戸區に産衣石あり、八幡野の隣に河津三郎俣野五郎が角力場の蹟あり頼朝腰掛石あり、熱海より上下、多賀、網代、宇佐美、を経て伊東に至るは順路なれども道路峻坂多くして人力車さへ通せざれば初めより瀛船に乗るを便とす熱海伊東間船賃並三十錢、東京よりは從來隔日の船便ありしが東京灣汽船會社は乗客の便を圖り毎朝出帆することゝなしたり、東京伊東間船賃は中等一圓四拾錢並九十錢なり、また伊東より下田へは中等九十錢並五十五錢の定めなり、

温泉旅館は猪戸にては栂屋(菊間鶴藏)山田屋(井原半助)湯本屋(芹澤恒三郎)玖須美にては養真館(小原歌)大阪屋(野田宗兵衛)及湯端の前田屋(前田秀夫)寶來屋(武智功之助)をおもなるものとす、中に

も栂屋は土地高燥にして眺望快濶、猪戸温泉中第一の地位を占む、養真館は目下客室増築中なり、宿料は宿賄にすれば上等一泊金六十錢、中等金四拾錢、並金三十二錢、上等晝飯料金二十錢、並金十二錢とす、又自賄にすれば庶費は一週間、八疊金一圓五十錢、六疊金一圓二十錢、四疊金一圓にして、寝具は品質の良否によりて差あれども木綿夜具なれば一夜一組金二錢より金十錢まで絹布夜具は一夜一組金三十錢より金四十錢までとす、米、味噌、醤油、薪炭、油等は旅館にて客の需めに應すべく魚類、野菜は各自好みの品を求めて調理するを得べし、

此の地の産物は海産物を重なるものとす鯛、鯉、鱒、海老、烏賊、鮑、章魚、海鼠、鱒、海苔、和布等にして川魚には松川唐人川より産する鮎、鰻、鱒等あり、外に伊東みやげ、と稱する菓子あり、温

泉を用ゐて製したるものにして眞に伊東のみやげとして珍しく又た伊東名所煎餅、伊東温泉練製粟の水飴、初夢煎餅、饅頭等いづれも風味よき物なり、

磯川流入海 海岸湧清泉 不用懸瓶汲
溝槽常溢然 濟人甘冽味 最在瘧疾天

(卷 江)

修善寺温泉

修善寺温泉は君澤郡修善寺村にあり、南北に山を負ひ東西は開けてさながら藥研の底の如し、桂川は其の中央を貫流し、奇岩、中流に湧起し水之れに激して飛沫は雪の風に吹かるゝ如く、急湍は白練を蹴へすが如し、二橋を架す渡月橋といひ虎溪橋といふ、

温泉湧口は獨鈷湯、眞湯、河原湯、箱の湯、杉の湯、瀧の湯、岩の

湯、花の湯、菊の湯、菖蒲湯、寺の湯、明治靈泉、大日靈泉等あり、就中獨鈷湯は有名なるものにして桂川の中流に湧出し岩を穿ちて湯槽とし板を以て其中を畫し冷温二湯に分つ、岩上に獨鈷形の石標を立つ、泉質は鹽類泉にして梅毒、疥癬、子宮病、痛風、痲氣、胃加答兒、腸加答兒、肺炎、痔疾、レウマチス、皮膚病に特效あり、修禪寺は人皇五十二代平城天皇の御代、空海上人の開山に係りしといふ、源範家、梶原景時の爲めに襲はれて自刃せしは此の寺なり後源頼家もこゝに幽閉せられ浴室にて暗殺されたり、されば寺の寶物多きが中にも源氏に關するもの頗る多し、

三州園は桂川の南にあり、古は指月の岡と稱せり、昔尼將軍此の寺に來り右府を追想して月に對し歎歎嗚咽之を久ふせりと傳ふ、後荒廢に屬せしが近年に至り村民某々等の力に依り今は一の遊園となれ

伊豆修善寺温泉

り、

正覺院は昔空海上人の修行せし處なりと傳ふ、寺は境頗る幽靜にして三伏の候と雖ども涼風骨に徹し夏にして夏を知らずといふ、

その他、頼家の墓、範頼の墓、月見ヶ岡、御庵洞、日枝の社、蝦蟇ヶ淵、稚子瀧、白糸瀧、太白山、紙谷瀧、旭瀧、淨麻寺瀧、等見るべきもの多し、疑雨來館は桂川の南岸、高燥の地を占め眺望甚だ快濶なり二十勝の撰あり、即ち洗心亭、白絲湯、曉星池、灌頂窟、晒裾臺、聽雨林、放鴨洲、走鱸巖、蝸盤石、現身門、月痕窩、搗糝白龜紋壁、蝦蟇潭、飲馬川、嘶風岸、秋陽瀑、鬪龍灘、何龍橋、思君峽、坐して寓目すべし、

温泉旅館は柳屋(湯川廣吉)野田屋(野田八郎平)菊屋(野田修治)養氣館(相原平八)對碧館(淺羽保右衛門)衛生館(大川彦八郎)四方樓(柳

田いせ)江戸屋(後藤龜之助)等あり皆な桂川の兩岸に軒をならべり、野田屋は即ち疑雨來館にして其支店を虎溪橋の南側に置き本支店とも内湯の設あり、

東京より此の地に行くには東海道鐵道三島驛にて互相鐵道に乘替へ大仁驛にて下車し、それより人力車あり(賃金二十錢)馬車あり(賃金七錢)

湯ヶ島温泉

由來伊豆の國、温泉を以て名あり、熱海の如き人に知らるゝこと早くして折角の好温泉場も俗化して熱關の地となり隨て物價も自然低廉ならずといへども獨り湯ヶ島の如きは幽靜閑雅にして靜養をなすに適し物價亦低廉にして風俗敦厚頗る愛すべきものあり、されど地の邊鄙たるの故を以て其名を稱ぶもの甚だ多からざるは惜むべし、

伊豆湯ヶ島温泉

湯ヶ島温泉は田方郡上狩野にあり、大仁停車場を距ること三里二十町、馬車あり賃錢一人廿六錢、人力車なれば一人賃錢五十八錢、新橋大仁間涼車賃金一圓三十二錢、

天城山南に峙ち狩野川、村の中央を貫流し一望すべて緑樹翠草にして居ながら郭公を聞くべく樓上手を延ばして笠を撲つべく其快、蓋し都人士の知らざる處、氣候は極暑といへども八十度を越えず大寒も四十四五度を下るとなし、されば避寒避暑共に好適の地なり殊に夏日は蚊帳の必要なきが故に勉強するによしとて近來書生の避暑かた／＼勉強に来るもの多しとかや、旅館落合樓は狩野川に臨み四周樹木鬱蒼し川には釣橋を架し頗る風致に富む、宿料は一晝夜にて並等金三十五錢より四十錢、上等金五十錢より六十錢とす、温泉は鹽類泉にして湧口は西平、世古 木立の三ヶ所に分る、木立は木刀より

轉訛せるものにして往昔源頼朝此の地に來り木刀を以て穿ちしに因り其の名ありと傳ふ、此の地の名物は山葵、椎茸にして川魚亦多し、

附近に淨蓮瀧あり上中下の三段をなし最下のもの最も高くして殆んど九十尺あり、

○西平温泉、落合樓の下流敷町にあり旅舎を湯本屋とす、

○世古の瀧温泉は西平の南十七町の溪間幽邃の地に在り落合樓の元湯なりといふ、

○吉奈温泉、大仁停車場を下りて本街道二里ばかり南行して右へ一里計入る所にあり温泉宿を豆腐屋といふ閑靜にして避暑によし、

○古奈の温泉、南條停車場より七八町にあり石橋三左衛門といへる宿屋あり宿料は四十五錢を通常とす、

戸田海水浴

戸田は伊豆國田方郡戸田村にあり、新橋より汽車に乗りて沼津停車場にて下車（汽車賃金三等一圓二拾錢）汽船に乗れば一時間にして達すべし、北方には富士山雲外に聳へ三保の松原、田子の浦目睫の間に見へ風景他の俗境と異り一段閑靜の趣きあり、魚肉の鮮なるあり、鶏卵鶏肉にも事缺くことなし唯俗輩の爲めに歌妓の樂を缺くを憾みとするのみ、されど眞に靜養を望む人には一遊直に仙境の感あるべし、海水浴場は御濱と稱する所にあり水清く浪穏にして危険の虞なし、

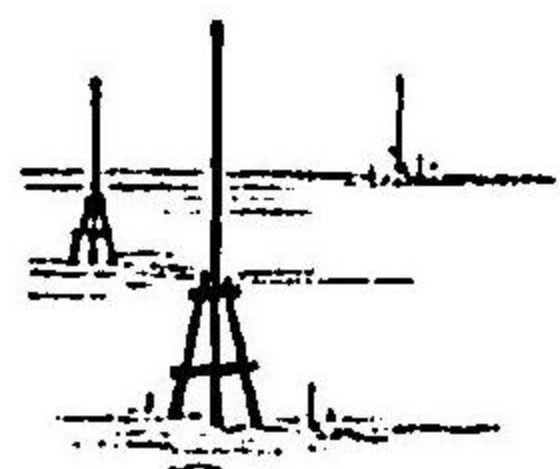
伊豆國

戸田に遊べる人は序に堂ヶ島の洞窟に曳杖せよ、

堂ヶ島或は洞ヶ島とも書す、仁科村大字濱村にあり昔源賴朝石橋山に敗れ逃れて此處に匿れしと傳ふ奇岩怪石起伏散在し或は洞をなし

或は窟をなし其の奇觀、筆紙につくし難し、編者嘗て雲州高尾の郷鬼の舌震を觀て其奇を激賞せしは未だ洞ヶ島に遊ばざるの昔なりけり、彼は涓々たる溪流に在り、此れは渺々たる大海の岸、其の觀もとより同日の談にあらず、

伊豆國



伊豆戸田海水浴

駿河國

六四

佐野瀑園

佐野瀑園は富士山麓の一勝地にして、園内に、雪解の瀧、富士見の瀧、月見の瀧、銚子の瀧、狭衣の瀧、の五瀑布あり、直下各々四十尺、相並びて飛下し、壯觀いふばかりなし、園内の五龍館は蕨葺造の大廈にして頗る風致あり、近來また西洋造のホテル(佐野ホテル)を増築して、館内甚だ手広く、料理は和洋何れにても客の好みに應じて調進すべし、園より凡十五間にして景ヶ嶋及屏風岩あり、景ヶ嶋は眺望快濶なるを以て稱せられ、屏風岩亦其名の如く、さながら屏風を立てたる如き一大奇岩なり、園主は此近傍即ち富士の裾野、數千町歩の地に園ひを設け、特別遊獵地となし、旅客をして隨意に

駿

河

國

駿

河

國

遊獵せしむ、若し夫れ徒然の折、一竿の釣を携へて瀑布の流に大公望を學び、或は小銃を肩にして森々たる老樹の間に兎山鳥の類を獵するを得るの自由あるに至りては、また比類なき樂園なりと謂ふべし、ホテルの近傍に佐野の八景と稱するものあり即ち景ヶ島の秋月、屏風岩の鴛鴦、千福の青田、榮橋の流螢、桃園の櫻花、平松の夜雨、定輪寺の晚鐘、古城の暮雪、いづれとして散策に可ならざるはなし、佐野停車場よりの車賃十二錢なり、

富士に眼を放せば廣き青田が那

樂 天 堂

牛臥海水浴

沼津に下車して南行し更に右折して進めば海岸に牛の臥せるが如き丘陵のあるを見るべし牛臥山といふ、所謂牛臥海水浴場は其の麓にあり、静浦の碧を擁して牛臥の翠を負ひ、伊豆の大瀬を左にし、右

駿河牛臥海水浴

六五

駿河 河 國
 三保の松原を招き、海上には高島、瓜島の奇巖突起して風致を添へ、御料の森林、東海濱に蒼々として相續き風景極めて好し、加ふるに海水浪靜かにして清潔、空氣亦新鮮、極暑も八十五六度を昇ることなく、嚴冬なほ四十度を降らず寔に好個の療養地なりとす、近傍には、東宮殿下御用邸をはじめとし華族、豪商等の別墅多し旅館を三島館と號し舊本陣の世古六太夫なる人の所有にかゝる海岸には數棟の別莊を建築し、各棟皆浴室、厨を設け又邸内には砂浴場、納涼所の設あり、昨三十二年牛臥山三島館主の有に歸せしより全山を擧げて運動場にあて山上に休憩所を設く、登臨の景色甚快濶なり、また海岸の岩石自然の池をなせる處を釣池と名く、蓋し短棹長竿の遊びに適す、三島館は和洋の料理、客の好みに應じて調進す、名物に松露水煮あり桃郷の桃また味よし旅客求めんとならば旅舎へ命ぜ

よ格好の家づとなり、

我入道海水浴

沼津を距る南二十町餘牛臥山を距る北三町にして狩野川の河口にあり、西北には田子の浦三保の松原を望み北には富士の雲外に屹立するあり海を隔て、大瀬崎眞城山を見、なべての景色牛臥に似たり、旅館を松風館といふ、

靜浦海水浴

靜浦海水浴は牛臥の南靜浦字志下にあり、伊豆の大瀬崎と駿河の三保ヶ崎と相擁して一灣をなす、白沙は長く續きて、御用邸の青松と相映し風光頗る妙、海水浴旅館保養館は好評あるもの、

山本の松の下みち日は入りて

馬ひくしづが影急ぐなり

品 綱

駿河我入道海水浴、靜浦海水浴

六七

富士山

六八

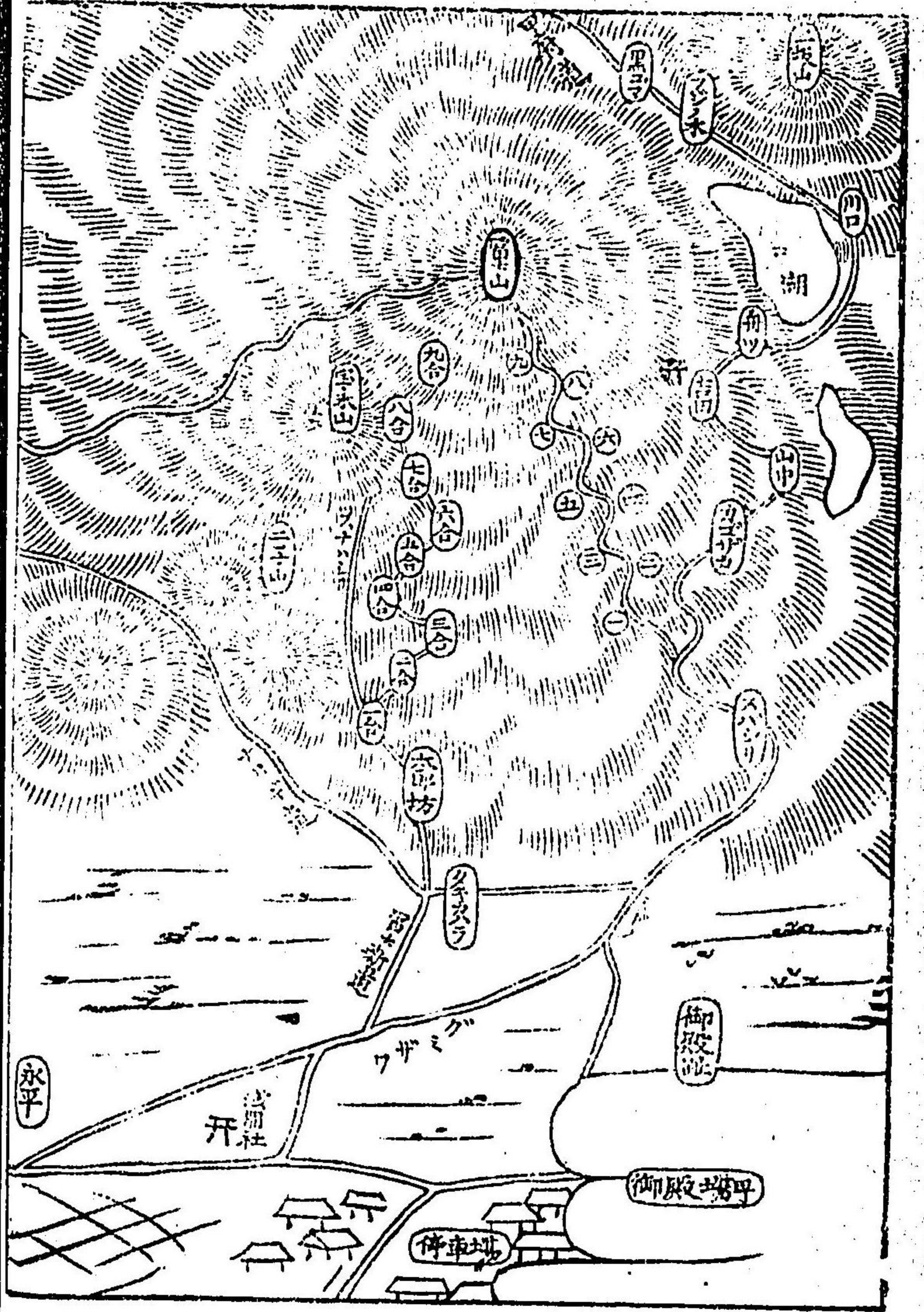
富士山の靈峯たることは誰も知るところなれば今更其の形容など管々しく言はで直に登山の御案内仕るべし、嘗て野中至氏此の頂上に冬籠りを企てしより一万二千四百尺の高嶺も今は冬さへ登山し得ざるにあらざる事を知りしかど通常は毎年舊曆六月一日の山開きより登山するを一般とす、其の登口は古來三ヶ所ありて第一を富士大宮表口とし第二を北口舊吉田とし第三を東口須走と稱せしが何れも峻嶮にして登行甚だ困難なるを以て非常の強壯者にあらざれば登山することを得ざりしが伴野佐吉なる人、之れを遺憾とし明治十六年自費を抛ちて東表口なる新道を開鑿せり、爾來太郎坊まで人力車を通じ二合目まで駄馬を通ずるに至れり、又駕籠を雇へば（人足六人を要す）一步の勞を煩はさずして登降自由なり、而して東京及び海道

筋より登山するには實に此の東表口新道を以て順路とす、偕て此の道より登山せんとする人は御殿場より下車し旅館に入りて登山の支度をなすべし、旅館は登山者の爲めに萬事の周施をなす即ち剛力人足を借ふこと（剛力人足は五人一組にて一人とし若し荷物多きときは三人とす又た客一人にても必ず一人の剛力人足を要す）辨當、笠、着吳座、杖、襪袍、草鞋（草鞋は一人に付き五足を要す）其他毛布の類を準備すること總べて旅館に聞き合せて手落ちなき様にすべし、準備の費用は年によりて相異あり必ずしも一定せざれども今御殿場の旅館不老館富士屋より本年の確定せるものなりとて報告せるところに依れば左の如し、

剛力人足雇賃、登降二日掛にて金七十錢、但食料は客持
襪袍、貸賃一人前 金二十錢、

駿河富士山

六九



杖一本 金十錢、此れは太郎坊にて賣る
 山辨當、金十二錢、

御殿場旅館、止宿料及晝飯料

止宿料、上等一圓廿五錢、中等七十五錢、下等四十五錢、

一食料、上等三十錢、中等二十五錢、下等二十錢、

駕籠は人足六人にて登降賃金拾五圓也

茲に登山の準備整へば此れより先きは一に剛力の案内に委かせ編者は只其の大略を一通記載することせん、

御殿場より一の小屋まで三里道路平坦にして殆んど一直線をなす人力車賃金八拾錢の定めなれども大低二人挽きを例とするが故に賃金壹圓三四十錢を要すべし、若しまた乗馬にすれば御殿場より太郎坊まで三里十二町の間駄賃金六十錢、二合目までは金八十錢なり、

七二
 太郎坊より數町、登れば一面の燒原にしてたゞ處々に雜草の點々たるを見るのみ、一合目より九合目に至るまで一合目毎に石室の休泊所あり此處にて休憩して麓の方を眺むれば實に得も言はれぬ景色にして登阪の困難も忘るゝばかりなり、但し歩行中は只足もどをのみ見て登るべし決して四方を見廻すべからず山に醉ふの慮あればなり、七八合目にて謂ゆる御來光なるものを拜すべし是れ拂曉、日輪の大洋より昇天する光影にして即ち俚俗に謂ふ處の三體の彌陀是なり、其奇觀なること蓋し下界に於ては想像にだも及はざる處なるべし信者が之れを拜して感涙にむせぶも寔に無理ならぬ事ぞかし、六合目より寶永山の裏手へ遁入る道あり、之れ富士山の裏面へ廻りて一周するものにして中道廻りと謂ふ途中に一泊して二日を要す、旅客若し此の道をまはらんと欲せば豫め長き杖を準備すること必要

なり、

八合目より數町にして大たるみあり所謂千古の雪は此處にて映むことを得べしそれより登山中第一の難處なる胸突八町（詰つ）に到る疊々たる巨岩突兀して亂れ立つ、峯の河原の傍らに湧き出づる銀明水は白山嶽の麓にある金明水と一對にして登山者の是非一掬せざるべからざる靈水なり、それより銅馬堂の古跡を訪ひ堂の傍の段を登れば絶頂劔ヶ嶽に達す淺間神社の奥の宮は此處に在り、良香朝臣の富士山記の石碑、舊噴火坑さては芙蓉峯の謂はれなど剛力の朴訥なる説明を聞き終れば登山者は是非とも野中氏冬籠りの跡を訪ふて彼れが壯圖を贊稱せよ、

下山するには銀明水の傍らより以前通りし胸突、大たるみを經てすなはしりに到るべし此のすなはしりを降れば一時間も費さずして二

合目に達するとを得、

御胎内は御殿場より一里二十町おぎはらといへる原野に在り、婦人子宮の如き岩窟にして之れに入るを胎内廻といふ、此の胎内廻りをなしたる人の擲を以て懷胎婦人の腹帯となすときは安産すると傳ふ寶永山のことには付き神澤其鯛の面白き記文あり左に掲げて讀者の一覽に供せん、

寶永四年十一月二十日頃より、江戸中寒氣甚しく、一天かき曇りて朦朧たりしに、同き二十三日、午の刻時分、いづくともなく震動し、雷鳴頻りにて、西より南へ、墨を塗りたる如き、黒雲驟き、其の間より、夕陽移りて、物すさまじく、晝八ツ時より、鼠色なる灰を降らしぬ、諸人魂を消して惑ひしに、老人の申しけるは此の三十八九年以前、かやうの事ありたり、是は定めて、信濃の淺

間山の、焼け出でしならんと云ひしかば、諸人すこし心を取直しぬ、夜に入るに隨ひて、灰彌々強く降りしきり、後には黒き砂大夕立の如く降り來て、終夜震動し、戸障子なども響き裂け、物の相色も見えわかねば、晝夜を分かつたず、家々に燈をともし、往來の人も絶へ果てぬ、適々通行する人は、此砂にふれて目くるめき怪我などせしもありとかや、諸人如何なる故とも知らず、されば世の滅ぶるにやと、女童などは啼きさけびしに翌日に及び富士山焼け候よし注進有りき

昨二十二日晝八つ時より全二十三日までの間地震間も無之卅度程ゆり、民家夥しくつふれ申候、扱廿三日晝四つ時より富士山夥しく鳴きいで富士郡中一面に響き渡り男女絶へ入りしもの多候へども死人は無御座候然る處山上より煙夥しく渦卷出て山大

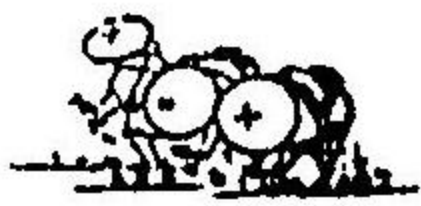
地共に鳴渡り、富士郡中一面に煙卷き候故いか様の譯ども不和
 知人々十方を失ひ罷在候ひるのうち煙ばかり相見え候處、夜
 に入り候へば一遍に火焰に相成り候以後いか様に相成候哉不奉
 存先右焼出での節不取敢御注進の爲罷越し候故委細の儀は跡よ
 り追々可申上由

右注進の後、彌々火氣熾になり砂石礫を吹き飛し、近國廿里四方
 へ砂石を降らせ、中にも伊豆、相模、駿河は所によりて二丈餘を
 降積り堂社民屋も埋れ田畑の荒あげてかぞへがたし、日を経て稍
 燒鎖りぬ、其土砂を吹き出し、所、穴となり其穴の口に大なる山を
 生ず、世俗呼んで寶永山と號す、街道の方より眺むれば右の半腹
 に彼の山出來て、瘡の如し、さばかり無双の名山に此の時少し環
 のいで來しこそ恨みなれ

わたり

見にゆく旅を

不二のゆき



清見瀉海水浴

清見瀉海水浴は興津の西七町を距る清見寺前の海岸にあり、此地は
 古へより風景の好きを以て有名なる所にして名を聞きてさへ早や清
 涼を感ず、藤原實枝は記して曰く、

清見の勝景は天下の奇絶なり馬を走らしむるものはくつばみを委
 し楫を鼓するものは棹を忘れ徒よりゆくものは十歩に九度目をう
 つす誠に八湘を卷て一望の中にをさむるならし

淺井了意は其風景を寫して曰く、

風景まことにたぐひなく眺望ひとへにあまりあり左に望めば海水

駿河清見瀉海水浴

ひろくたへて眼は雲の浪にまよひ右に顧みれば長山そびえつゝきて耳は松の風にすさまじ釣する海士の夜もすがら波にきまざる
かゝり火は世渡る人のならひとてうきつ沈みつ漕ぎめぐる

東は海を隔て、伊豆の諸山を望み西は久能山賤機山あり南は三保の松原にして北は富岳聳ゆ嗚呼是れ好個の畫圖

海水浴場は此のあたりの水清く波穏かなる所に設け天然の岩石を以て障壁となせるを以て危険の恐れなく婦人小兒も尙悠々浴を取るべし、

清見寺は興津町大字清見寺にあり、秋島離島の東海道名所圖會に曰く、

それ此禪刹は世に名高く前に江海渺々として清月禪心を照し後には山嶺巍々として啼鳥鐘聲に和し祖堂の四君樹は朝鮮木にして四

時に結ぶ其花形毎々に變はれる故此の名あり臥龍梅は客殿の前にありて枝の流れ丈餘尺其側に垂緑梅あり早春の頃は芽々として羅浮の夢に雪芳しうして拂へども去らず壽陽公主の粧あり書院の庭中には九段に落る飛泉ありこれを九曲泉と名く庭の前の牛石虎石龜石は其形によつて銘するなり什寶は國初將軍家の鑾輿清見が關の兵器四品あり扒頭抓子棒鉄眉刀尖刀などの類なり其外寶器かすがずあり常に清見寺の鐘を聞しと三井の狂女が諷ふ鐘樓も庫裏の前におり此門前は則東海道にして賑はしく郷相雲客萬國の諸侯多くは此寺に駕を停て詩を賦し歌を詠するもあり茶店の前は皆鹽濱にして汐汲汐漉鹽竈のけぶりいと寂々として風流なりこゝはむかしより月の名所にして須磨明石にならひたる勝色なり謝莊が月の賦に、白露空に暖き素月天に流る、と贅せしは此ほとりのこと

なるべし

八〇

此寺は禪宗にして淨見長者の開基に係り久しく廢寺となりしを足利
 尊氏將軍たりしころ再興せり、寺門のある所は古の清見ヶ關の址なり
 といふ、此他にも名所舊跡少なからず、
 旅館のおもなるものを一碧樓、佐野屋、身延樓、龜島屋、東海ホテ
 ル、千歳屋等とす、いづれも眺望よきところに在り、
 宿料は五十錢より一圓二三十錢まで、料理は和洋ともに好みに應ず
 べし、此の地の名物謂ゆる興津鯛なるものは味ひ頗る美にして其の
 濱焼は一碧樓亭主が自慢のご馳走なり、
 東京新橋發汽車にて午前七時三十分に出立すれば午後一時三十五
 分に興津停車場に着すべし、(汽車賃一圓四十九錢) 停車場より海水
 浴場まで人力車賃八錢、

不鐵關門俗吏生

只能令勝境留行

暮雲埋景有遺恨

清見寺中鐘一聲

(澤 庵)

久能山

久能山は駿河國有渡郡にあり静岡市を距る一里二十九町馬車は往復
 にて金三十錢片道金二十錢人力車は往復金五十錢片道金三十錢、
 山は海面を抽くこと八百九十尺なれどもはてしなき太平洋に臨み富
 士山の屹立するを見るのみにて既に心氣豁然たるへきに清見瀨三保
 の松原など眼下に見ゆるに至りては其快言ふべからず、故に夏時上
 る者多し、

山嶽に久能神社あり元和三年の創立にして徳川家康を祭る、勅額御
 門神廟唐門鼓樓神樂殿あり、

駿河久能山

八一

旅館は石橋、石垣、豆腐屋等にして又德音院にて室を貸して宿せしむ
254.

志太鑛泉

藤枝在にあり里人よんで鹽湯が谷といふ、鑛泉は潮生館といへる旅
館の邸内より湧出し無色清澄にして異臭なく強鹹味を有し、反應は
強亞爾加里性を徴す（愛岐震災後鑛泉は分量を増加せり）今其の分
析表を見るに、格魯兒那篤留謨九、三六〇二。重炭酸那篤留謨二、六
八六四。重炭酸加爾叟謨〇、二一七七。重炭酸麻偏涅叟謨〇、〇四四
二。沃度麻偏涅叟謨〇、〇一三九。酸化鐵及礬土〇、〇〇三〇。珪酸
〇、〇〇三〇。磷酸、硼酸、鈉羅謨、痕跡。合計一二、四一九六。に
して定量分析の成績によれば鑛泉分類上沃度含有の亞爾加里食鹽泉
に屬し浴用としては濕疹、腺病、粘膜炎、膀胱加答兒、内用として

は慢性腸胃加答兒、腺病、慢性子宮病に效あり但内用は三倍の水を
加へ稀釋して用ゐべしとなり、
藤枝まで新橋よりの漁車賃金一圓六十九錢、藤枝停車場より潮生館
まで二十町車賃十錢より十五六錢まで、宿料は五十錢、六十錢、七
十錢の定めなり、

此地は新開地にして其名未だ高からずといへども閑靜を好む人には
最も適當なる避暑地なり、殊に温泉宿の外は農家のみにして戸數僅
に十五戸、風俗極めて質朴にして都なれざるさま誠に愛すべきもの
あり、近傍の神代塚、人穴、烏帽子岩など散策をこゝろむるに適す
富士の山、田子の浦、三保の松原こゝより見ゆ、

遠江國

八四

舞坂海水浴

舞坂海水浴は遠江濱名湖口なる辨天島にあり、南は大洋に面し、西北は濱名湖に抱かれ遙に信飛の連山を望み、東は富士の高峰を仰ぎ其風光の絶佳なること筆紙のよく盡し得べきにあらず、濱名橋や、破損の個處ありと雖ども其美觀未だ衰へず、磯辨天の明媚、今切口の奇景亦皆一訪を煩すに足る、若し夫れ館山寺の勝に至りては林鶴梁先生の、

石壁峭立、壁盡れば即ち江、水光混漾、天と一碧、嵐光滴々、山影倒に浸す、天然の畫圖董巨の妙筆と雖ども得て彷彿する處にあらず、

遠

江

國

と激賞せるあり亦以て其一般を想像すべし海は遠淺にして波靜かに水清きが故に婦女子といへども危険の虞なし、蓋し海水浴場として多く得易からざるの地といふべし、

旅館は現今六戸あり其辨天島内に在るものを松月、中村樓、伊勢屋若荷屋支店、及び鯛山樓とす其島外にあるものを濱名館とす、濱名館は舞坂町の西端辨天島に相對する處に地を占む、是まで營業人を換へしこと數度なりしが近來は奥山半僧坊門前の柳屋ぬいなるもの所有となりてより大に改良を加へたりと聞く、若荷屋支店は天高氣清樓と號し島の東端に在り、これに鄰れるを伊勢屋支店とし、島の西部に在るを鯛山樓と名く、中央の三層樓は松月にして、中村樓は其鄰にあり、いづれも明治二十四五年以來の建築にして土地の繁榮を企するが爲め大に勉強し一に旅客の便利を圖れり、

遠江舞坂海水浴

八五

濱名湖邊の古跡には、宗真親王の古城趾たる伊井谷の宮、皇子無門
禪師の開基たる奥山方廣寺、三方ヶ原の古戰場等あり、
新橋より舞阪停車場まで瀛車賃二圓十九錢、停車場より辨天島まで
十六町、馬車あり賃金六錢、人力車は十錢の定めなり、宿料は下等
五十錢、上等七十錢、晝飯下等二十二錢、上等三十錢、其他は客の
好みに應じて多少の差異あるべしとなり、若し舟遊を試みんと欲せ
ば旅館に於て舟の用意をなすべし、釣船一艘一圓、網船一艘一圓二
十錢、屋根船一艘一圓五十錢、(皆舟子雇賃をふくむ)

誰向此問着 一詞

絶佳風光閉吟詩

煙波三万六千景

春月朧明天女祠

(學海)

氣賀海水浴

氣賀海水浴場は濱名湖の東北風景絶佳の地を占む、引佐の細江に臨
めるを以て海水極めて穏なり、濱松を距ること四里、乗合馬車あり
旅舎を吉野屋といふ、こゝより舞坂へ遊ぶには小舟を雇ふて湖中の
風光を觀ながら二時間ばかりにして達すべし舟賃八十錢位、宿料は
舞坂と大差なし、

鷺津海水浴

鷺津海水浴場は濱名湖の西岸鷺津停車場の在る所にあり、其眺望舞
坂に及ぶべくもあらねど決して氣賀には譲らず、旅館の名あるもの
を濱名館とす、宿料また舞坂氣賀と大差なし、

遠江氣賀海水浴、鷺津海水浴

三河國

八八

蒲郡海水浴

蒲郡海水浴は蒲郡停車場を距ること僅に二町、東北西の三面は翠巒を負ひ、南方は渥美灣に而し碧波渺々たる間に竹島、大島、小島、佛島等の島嶼散在し、海岸には所謂戀の松原あり、森々たる青松白沙に映じて十餘町に續く、涼々森其西端に連り、山紫水明の美宛然畫の如し、殊に海水、清くして波、靜なれば更に危険の虞なくまこと三河第一の海水浴場たるの名空しからずといふべし、

竹島の辨財天は往昔藤原俊成卿の勸請せられしものにして日本七辨天の一なりと傳ふ、

旅館は健碧館を第一とし、海月樓、海老屋、岩龜亭、常盤亭、之れ

に次ぐ、健碧館は海水を館内に導き四時温浴の設けあり、近來客室を増築し、且貸別荘をも新築し勉めて改良を計れり、大磯あたりの俗化を厭ふ人は試みに史杖せよ、入江の舟遊などは、また格別なるものなり、健碧館の宿料は普通五十錢、中等八十錢、上等一圓なり名物には海鼠腸、もづく、魚煎餅等あり土産物として琳裁よき、近傍には臥龍の松、幾代の岩、阪本の瀧等遊覽すべき處少なからず、東京新橋午前六時二十分發の急行列車に搭すれば、午後三時三分には蒲郡停車場に着すべし、賃金貳圓四十九錢、

大島や小島がまきの佛島

涼の杜に戀の松原

俊成

伊良湖岬

三河國渥美郡の海に突出せる所を伊良湖岬といふ、尾張の師崎と相

三河蒲郡海水浴、伊良湖岬

八九

對して一灣をなす、伊良湖村一小漁村にして高丘あり、登れば四方
 を見るべく頗る眺望に富む、即ち答志、神、の二島を隔て、志摩の
 朝熊山を見る、衣ヶ浦には篠島日間加島佐久の島の散在せるを認め、
 東には三保の松原に似たる松原あり、若し夫れ戀路ヶ浦に至りては
 奇の奇なるものあり、骨山といふに牛ヶ首の岩あり、二大門ありて
 高さ十餘丈、中に洞穴あり浪怒れば轟々として入つて鳴く、
 此の地好景の目を樂むるもの斯くの如く多きも一旅館の泊すへきな
 く遊ぶ者の遺憾とする所なれども漁家寺院等に頼りて一夜の情に預
 り田舎者の手料理に村釀を酌むも中々に興あることなるべければ發
 澤を好む人といへども一遊して可なり、
 東京より赴かんには新橋より豊橋（三等金二圓卅七錢）まで汽車に
 乗り同所より半呂まで人力車を驅り半呂より船に乗りて畠村に着せ

ば僅に二里にして伊良湖に至る、

前芝海水浴

豊橋停車場の西一里三十町を距る前芝村にあり、東南は海に臨みて
 白帆の走るさま漁舟の翻々たる手に取るが如し、西の峰巒は或は起
 ち或は伏し或は遠く或は近くして、天然の風景双眸の中に集る、此
 の地は海水浴旅館に割烹さへ兼ねるものあれば、伊良湖の如く不便
 を感ずることなかるべし、

去明治二十五年の頃洪水の爲め豊海亭は全く流失し未だ再築の運
 びに至らざるは惜むべし、

尾張國

大野海水浴

大野海水浴場は知多半島の西岸、風景絶佳の地にあり、海水清潔にして波、静穏、かつ水底すべて砂地にして遠淺なるが故に海水浴場としては實に好適の地なり、有名なる海音寺の薬師如來は往昔この海中より出現せるものなりと傳ふ、其如來縁記によれば、人皇九十七代光嚴天皇の御宇すなはち元弘年間この地の海水に浴して病を治せしものありけり是蓋し我邦海水浴の嚆矢なるべしと、
 旅館の最も評判よきものを海濱館とす、恩波樓之れに次く、海濱館の宿料は三十五錢より五十錢までとし別に席貸もなすといふ、
 最近の停車場は半田町にして里程三里、人力車賃三十錢なり、また

尾 張 國

熱田海岸より毎日午前八時漁船の出帆あり、賃錢十六錢、僅に一時三十分にして達すべし、名物は名古屋、熱田などに比すればなべて低廉の方なり、名物には大野味噌、一口香鯛の力煮、よしの煎餅、ふともづく等あり、近傍遊歩によきは前記海音寺境内及び知多御坊なりとす、

鏡如大月上齋端 十里平沙望一般
 不識城中炎熱苦 恩波深處夏尙寒 (國貞)

師崎海水浴

師崎海水浴場は尾張國知多郡半島の極端にあり左は伊良湖崎にして、右は伊勢、志摩、の峰巒見ゆ、東京より赴くものは漁車にて新橋を發し、大府にて乗替へ武豊停車場にて下車すべし、停車場より南の方五里程、海水浴は養春館の開きしに始り近來岐阜西京地方よ

尾張大野海水浴、師崎海水浴

尾 張 國

り來遊するもの多く、夏時は常に浴客を以て満ちる、
 地は魚類の産多く鯛は殊に名産として數へらる、旅館の重なるもの
 は養春館、見晴、中川屋、土屋、とす、
 師崎の西一里に豊濱海水浴場あり是亦好き處にして師崎と勢揃たる
 ものなり、旅館を大西屋、梅屋とす、

既ひこつ

みつけて

うれし

伊良湖岬



安房國

北條海水浴

北條の海邊は波濤甚だ靜にして且清潔なれば海水浴には極めて適當
 の地なり、旅館には海岸に小松屋、鏡浦亭、朝日屋あり、仲町には
 吉田屋、松岡樓、濱通には木村屋あり其他、吉野庵、富士屋等孰れ
 も相當の旅館なり、此地は館山と町綴にして交通の便甚だよく東京
 よりは一日に四回の漁船便あり、即ち靈岸島より一番船は午前六時
 十分、二番船午前八時、三番船午後八時、四番船午後十時乗込十二
 時出帆、北條發一番午前八時、二番九時、三番午後一時、四番午後
 八時(漁船賃四十錢)若し陸にて行かんとならば本所停車場より上總
 大原町まで漁車、大原町より北條まで十八里の間人力車あり、され

安房北條海水浴

九五

どなほ海路の方が得策ならん殊に此航海中の眺はまた格別なるものなり、諸北條へ上陸して觀れば前面は万頃一碧の鏡ヶ浦を控へ富士の秀峰來て其影を寫し高の島、沖の島其間に起伏星散する様洵に得も言はれぬ景色なり、今鏡浦亭定めの宿料を聞くに一泊三十五錢より五十錢位まで、下宿料は一ヶ月十圓より十五圓、特別扱にして十八圓位までなり、小松屋は漁船發着所の西三軒目に在り其宿料も鏡浦亭に同じ、北條より北方一里にして有名なる那古寺あり、那古寺は僧行基の開基に係り本尊十一面觀音は即ち行基の作なりと謂ふ、那古町の西方二十町に船形村あり、其大福寺の本尊を船形觀音と稱へ行基の作なりと傳ふ、開山は慈覺大師にして承和年間の草創に係るといふ、左甚五郎の作など見るべきものあり、北條の近傍遊覽すべき處は此等の外に、小式部、紫式部、源賴朝、里見氏の古

跡、臥龍松、沖島、鷹島、及び峰岡の牧場等なるべし、

旭日回光上石窪

分明積水一盞開

不知誰澗雨將至

只道仙娥阿鏡來

(星 巖)

高崎鑛泉

高崎鑛泉は平郡岩井村にあり、木の根嶺の山腹より湧き出づる冷泉を温めて入浴に供す、佝麻質斯、皮膚病、痔疾、に效ありといふ、近來海水浴場をも設置したれば避暑には屈竟の地といふべし、日々東京館山へ便船ありて交通の便よきが故に夏日は東京より行くものも少なからず、地は高崎灣に瀕し海を隔て、遙に富士山を望むなど景色や、北條に似て絶佳なり、旅舎に高崎亭あり質朴の風愛すべきものあれども旅館としては今一段の勉強が肝要なり、近傍に富山あ

安房高崎鑛泉

九七

九八
り馬琴の八犬傳によつて世に名高き秀峯にして登望の光景亦頗る佳
なり、其他頼朝旗竿の藪など觀るべきもの多し、物價は一般低廉の
方なり、

鴨川町

鴨川町は長狹郡中屈指の名邑なり、地位は鴨河の河口を占め坤の方
峯岡の山脈を望み、南方は海に瀕し、有名なる仁右衛門島前に横り
山勢水態頗る趣あり、仁右衛門島は一名波太島といひ昔源頼朝其臣
平野仁右衛門なるものに此島を賜へしと傳ふ、平野氏の子孫連綿と
して今尚ほ存す、鴨川町の海水浴旅舎は相模屋、吉田屋、櫻屋等と
す、其宿料は一泊三十錢以上なり、之れを北條館山に比すれば聊
不完美たるを免れずと雖ども總じて物價の低廉なるを以て客を招
く、されば鴨川附近、濱荻、天津町、内津、小湊あたりの海水浴へ

安 房 國

東京より來遊するものは重に書生小官吏等を多しとするとぞ、すべ
て安房の國は到る處漁業の盛なるが故に魚類は廉にして而かも新鮮
なるものを喰はす、魚に飽かんと欲する學生達はこゝらあたりに遊
ぶが格好ならん、

天津町

天津町は同郡東端の一邑にして漁業の盛なるを以て名あり、町の後
は丘陵起伏して翠を争ひ前は言はでも知れた太平洋、漂渺涯なく薄
暮岸頭に立て眺望すれば大魚の波間に跳るを見るべく、風をはらん
で歸り來る舟に追分の節面白きなど都の人達には見せもし聞かせ
もし度きものなり、海水浴館は井筒屋、蓬來屋とす、物價は鴨川町
と大差なし、此邊に遊ぶ人は是非とも、

鯛の浦の奇觀を見てみやげ話にせよ、奇觀とは、小湊の東北なる海

安房鴨川町、天津町

安 房 國

中三四町四方の處に幾千万と數限りなき鯛の群集せるを曰ふなり、
 這は日蓮上人往昔此處に於て漁獵することを禁じたりとて今も尙土
 人其禁を固守して犯さざるが故に近海の鯛此處に群集せるなり、天
 津町より西北二里にして清澄山あり、

清澄山

清澄山は有名なる古刹清澄寺のある處にして靈場奇跡訪ふべき處甚
 だ多し、其光景の絶佳なること上總の鹿野山の右に出づると謂ふ誠
 や安房上總の海は更なり武藏伊豆相模の山々さては伊豆の群島まで
 煙霞の間に見るを得べく、其遠山遙峯平砂曲浦の眺望、蓋し鋸山に
 次ぐ、旅館は小梅屋、山口屋等あり、物價は低廉なりとは言ひ難け
 れど風俗質朴にして旅客に對し上手もなければ御世辭もなく、茶代
 が餘分なりとて迷惑するなどは洵に愛すべきものなり、

おく山の杉の村立露おちて

名も知らぬ鳥の聲ぞ聞ゆる

昌 綱

千倉鑛泉

千倉鑛泉は朝夷郡あまひ磯村にあり、蓋し發見以來日尙淺きを以て世人其
 名をいふもの少なけれども、其景色といひ便利といひ中々捨てたも
 のにあらず、殊に鑛泉の外に海水浴の設けもあれば旁々以て避暑に
 は適當の地といふべし、鑛泉は鹽類泉に屬し、消化器病、呼吸器病
 水脈腺腫、皮膚病、骨系諸病、腹腔内諸患、に效ありとの事、景色
 は鴨川あたりと髣髴たるものなり、北條よりこゝまで三里、人力車
 を通ず、賃錢二十五錢位にて足るべし、旅舎は鵜野源十郎外三四戸
 あり、

鋸山

安房清澄山、千倉鑛泉、鋸山

鋸山は加知山より一里二十町、保田より二十町ばかり、山上遠望豁達十國を一覽すべし、其の日本寺は行基菩薩創建の名刹にして聖武天皇の敕願所なり、奇勝古跡一々記するに暇あらず、旅客房州に遊んで鋸山を見のこさば遂に房州を語るべからず、

巋然傑閣架出鬼

霧氣橫秋四望開

雲岫嶽遊天外出

潮容島樹地中來

十州奇景歸双眼

萬里離愁付一杯

指點虛空神愈王

欲鞭鯨背問蓬萊

(雨香)

元來安房の國は三而海にして江灣多きが故に到る處海水浴場として適せざるなく、又た中央以南は山勢綿亘せるが故に頗る山水の風光に富めり、されば此地に避暑せる人は序に房州廻りなるものを企つ

安 房 國

るもよからん、僅に東西十一里、南北七里半の小國なれば十日の暇を費しなば津々浦々大抵は巡遊することを得ん、今筆の序に此の國の名ある處を記さんに、

根本海水浴場、これは外房州にあり北條より三里、西北に富士を見南に伊豆の群島を望み、眼界快濶にして好き處なり、北條より車賃三十五錢位、宿屋を養壽館といふ、

白濱村海水浴場、根本の北に當り燈明臺の在る處なり、丸屋といふ宿屋あり、

岩船海水浴場、小濱より一里、大平洋に面し快豁なる處なり、旅舎を浪華館といふ、

小湊村、有名なる誕生寺の在る處、見るべきもの少なからず其他、洲崎、伊豫ヶ嶽、安房神社、稻村古城趾、國分寺、館山公園

安房鋸山

等、敷多かれど暫く此の位にて筆を擱く、

上 總 國

鹿野山

鹿野山は周准郡の西部に位する高峰にして海面を抽くこと一千五百尺餘、老檜古杉、蒼鬱として繁茂し夜間は濃霧極めて深きが爲め數時間の散歩に衣服、びしよ濡れに濡るゝこと常なり、されど朝暁ひとたび昇るや濃霧忽にして刷ふが如く下界の光景脚下に集り眺望の快潤なること譬ふるにもなし、されば近年避暑地として外人の着目する處となり盛夏の候に至れば其家族を携へて暑を避くるもの甚だ多し、山中の怨怒院神野寺は聖徳太子草創の古刹にして頗る宏壯のものなり、珍奇の寶物少なからず、若し夫れ九十九谷の奇景鳥居

崎の絶勝に至りては今更管々しく云ふは野暮なり、旅館に大塚屋あり富士屋あり（富士屋は此の春頃は休業し居りしかど夏日に至れば再び開店する由）近年まで吻々館といへる旅館ありしが今は閉店せりといふ、大塚屋の宿料は普通三十五錢なりと謂ふ、東京より此地に行くには越前堀より午前六時後の汽船に乗れば午後三時には木更津へ着すべし（船賃上等三十錢下等二十五錢外に木更津にて船賃四錢を要す）木更津より鹿野山まで里程五里人力車通す、車賃は前曳付にて凡一圓二三十錢にて足るべし、

一の宮

一の宮は東上總第一の都會なり、此の地の海水浴場は近來の開設に係り其の名甚だ高からずといへども其の避暑に適するは云ふまでもなく避暑にも亦好適の地なり、現に昨冬佐倉病院は十數名の退院病

卒を此處に送りて静養せしめたるに頗る好結果を奏せしと謂ふ、地は太平洋に面し、左方一帶の沙灣所謂九十九里濱、灣形四十里、遠鏡を取て一望すれば犬吠ヶ崎の燈明、ありやなしやの境に到るまで眸底に收り、南は大東ヶ岬、應呼の間に突出し、翠藍滴るが如し更に一顧すれば鹿野、清澄の諸山亦集り來りて坐ろに詩情を促すあり眞に是れ兩總第一の海水浴場なりと云ふ可し、近傍には古城趾高藤山玉前國幣社、軍荼利山、觀明寺、大柳館趾、等千古の舊蹟散在せり、産物は鮮魚、貝類、松露菌等なり、就中岬は昔時幕府への献上品として其名著る、東京より此地に行くには本所停車場より千葉に至り、こゝにて一の宮行に乗替へるなり（東京一の宮間汽車賃七十四錢）一の宮停車場より海水浴場まで十五町、車賃廿錢以内、一の宮川を舟にて下れば七錢、一艘借切凡二十錢とす、旅館は青松館と

いふ其外に本年開業すべきもの一戸、目下地所撰定中のもの二三戸あり、青松館の宿料は普通一泊四十錢、中等五十錢、上等一圓、外に特別上等もあり、

海勢勾連上下總

千家暎網夕陽風

行々九十有九里

一路潮聲松影中

八幡岬海水浴

東上總夷隅郡にあり、地は里見氏の舊城趾にして近傍に名所古跡多し海水浴場としては一の宮に及ばずと雖ども、前面に雫ヶ岬突出し、海狗島横りて大洋の怒濤を防ぐが故に浪穩にして危険の慮なし、地勢は西南に大東が岬を望み、東は遙に犬吠が岬と相對し風光稍々一の宮に似たり、海産亦一の宮と大差なし、東京より行くには

上總八幡岬海水浴

前記一の宮を過ぎ大原停車場にて下車しそれより八町の間人力車あり車賃十二錢、旅館は帆万千館といふ、海水浴の外草津湯の設けもあり、宿料は三十五錢以上一回以下、

正是秋風網能肥

流前日落未扇扉

妻兒候岸ト多獲

幾箇布帆相返歸

(中州)

湯倉鑛泉

湯倉鑛泉は東隅郡西島村にあり、鑛泉はしらがけと稱する斷崖の間より湧出す、世麻質私、脚氣、痛風、子宮病等に效ありといふ眺望豁達ならずといへども四面綠樹翠草を以てつゝまれ潺々たる溪流其の間をながれ危石怪巖錯列争ふて奇狀を爲し眞に幽靜の地なりとす、

上總旅中

星 巖

海風五月爽於秋

總兆總南兩漸收

行盡沙灣三百曲

倚天峭壁是房州



上總湯倉鑛泉

下 總 國

稻毛海水浴

稻毛海水浴場は千葉街道檢見川村字稻毛に在り、本所停車場を午前六時五十分發の列車に乗れば同七時五十分には稻毛停車場に着すべし、其間僅に一時間と二十九錢の汽車賃とを要するのみ、地は東京灣に臨み、西方遙に富士山を觀、南は鹿野、鋸の諸峯を仰ぎ風景絶佳なり、旅舎海氣館(千葉町加納屋の支店)は白沙青松の間、蒼翠滴らんとする處を撰みて數棟の客室を設け止宿の外、貸席をもなすといふ、此地は東京に近いだけそれだけ物價も安房上總等に比すれば低廉ならずと雖ども之れを大森若しくは池上あたりに較ぶれば大に格好につくなり、蓋し東京人一日の消暑地としては適當の地と謂

ふべし、唯海水の清冽ならざるを惜むのみ、

犬吠ヶ岬海水浴

銚子停車場を距ること殆ど一里、海岸は巖礁多くして浪穩ならざれども、海水浴場は燈臺下の岩の間に設けられたれば危険の虞なし、されど變潮甚しき處なれば水泳に達したる人も猥りに遠くへ泳き出づるは危険なり、地已に斯くの如くなるが故に巖窟の奇なるもの少なからず、所謂胎内潜りなるものも其一なり、旅館に曉雞館(株式會社)水明樓、洗心樓、等あり、近傍遊歩地には長崎が鼻、銚子町等あり、其他所謂銚子濱廻りの地は到る處として明媚ならざるはなし、本所發午前六時五十分の列車に搭すれば午前十一時に銚子に着す、銚子より犬吠ヶ岬まで人力車あり、

電光激浪墨雲低

霹靂一聲風雨凄

俄頃晴空明月上

大平洋水與天齊

下總稻毛海水浴犬吠ヶ岬海水浴

香取神社

香取神社は下總國香取郡に在り、東京より赴かんには、本所停車場より瀛車に乗り、成田を経て佐原停車場（三等賃金八十二錢）にて下車し、津の宮を過ぎ坂を登れば（佐原より一里餘）即ち香取神社なり、社は神武天皇の御宇に創建せるものにして、經津主神を祭る社殿は頗る宏壯にして正殿、拜殿、神樂殿、神饌殿等あり、社の後を櫻の馬場と稱し、櫻樹多く遙に望めば、霞ヶ浦、潮來島見へ、利根川其の下を流れ、眺望頗る佳なり、近傍の名所は、木母杉、弓掛松、物見杉、三本杉、龜甲山、星塚、釜塚、笠塚、鹿塚、等あり、外に御手洗井、氷室井等、尋ねて見るの價あり、旅館も少なからず、名物を神代おこしといふ、

下 總 國

絶間なく帆影も見えて利根川の

ながめゆかしき夏は來にけり

茂 部

なつころも香取の神の廣原の

若葉をわたるかぜのすゞしき

忠 敬

下總道中

湖 山

滄陰慘日歳將殘

枯杖芒鞋人未閑

歴算前程思香砂

遍尋古跡淚潺湲

下總香取神社

下 總 國

常陸國

鹿島神社

鹿島神社は常陸國鹿島郡にあり、東京より行かんには、本所停車場より成田を経て佐原停車場にて下車し（香取神社の項を参考せよ）津の宮海岸より、舟に乗り大船津に航せば、五六町にして鹿島神社に到るへし、

鹿島神社は神武天皇の御宇に創建せし所にして、官幣大社に列し、武雷槌神を祭る、社殿莊嚴にして、本殿、拜殿、神樂殿、奏者社等と並び、境内廣くして樹木茂る、名所として、七不思議あり、要石、御手洗水、末無川、海の音、枳上り松、松の箸、御藤等とす、

常陸國

常

陸

國

要石は、本社路南一丁餘の處にあり、廻らすに木柵を以てす、傳へいふ、此の地の下に、大魚棲み時に地震ひしかば、鹿島明神此の石を以て壓して動くことを得ざらしめたりと、御手洗石は本殿の左一丁餘の處にあり、池には魚棲む、浴するものは病を癒し、長壽を保つと傳へ、今に浴する者多し、

筑波山

常野の間屹立する山にして尤も名あるを、筑波山とす、山は海を抜くこと三千百尺餘、西なる一峯を男體山といひ、東なる一峯を女體山といふ、登山せんと欲する者は筑波町よりすべし、路稍登り易すかるべし、山上よりは、常陸、上野、下野、相模、武藏、上總、下總、安房の山となく川となく野となく、一目に見えて、絶景言はん方なし、山中名勝多し、一二を擧げんに、

常陸鹿島神社、筑波山

高天原は、女體山の東にあり、此に上れば眼界寛にして、窮る處なく、泰山に登りて魯國を小なりとするの概あり、胎内潜は女體山にあり、長さ十間餘の岩窟にして、匍匐せば通ることを得、外に水無川、石門、大黒石等の奇跡あり、

大洗海水浴

大洗海水浴は茨城郡磯濱村にあり、水戸停車場にて下車して、市外なる備後堀に沿ふて行くこと三里餘にして、磯濱村に達すべし、或は舟にて那珂川を下り祝町に着せは、歩すること十五六町にして至るべし

磯濱の地たる漁村にして、魚類を産すること多し、地は大平洋に面し、鹿島を臨み、怪岩の突起するもの、古松の蟠屈せるもの、白沙

の坦々として布けるもの集りて大洗の光景となる、旅館數軒あり魚來庵、金波樓を重ねるものとす、魚來庵は浴室に海水を満たして温浴に供す、館は、海岸にあり、浪來れば白沫面を吹き、勢、家を流し去らんかと思はる、

大洗磯前神社は、國幣中社にして、大己貴命、少彦名命を祭る、文徳天皇御宇の創建にかゝり、其後久しく荒廢に屬せしか、水戸中納言光圀の經營に依りて、現時の社成れり、社は本殿、拜殿、神庫等いづれも莊嚴を極む、境内に御手洗といふ泉あり、清冷飲むべし、水戸に遊ぶ者は必ず大洗に遊ぶべし、此の地の産にして名あるものは鮑とし鱈とす、

信濃國

一一八

輕井澤

輕井澤は信濃國北佐久郡にあり、東京より赴かんには上野にて瀛車に乗り高崎横川を経て輕井澤に達すべし、其里程三十七里(三等瀛車賃金二圓二十六錢)、横川停車場より輕井澤に至る間は、僅に七里程なれども、山を穿ち隧道を通ずること二十六、其最も長きものは、一千七百七十二尺、軌道はアプト式にして隧道又隧道、明又暗忽ちにして晝忽ちにして夜、地は海面を抽くこと三千八百尺、四面山を繞らし、空氣清新にして夏日暑さを知らず、故に年々避暑の客を増し、外人の來る者も亦多し、宿屋は龜屋萬松軒を重ねるものとす、碓氷嶺は、紅葉を以て其名著はるゝもの、横川停車場より西四里、

信 濃 國

景行天皇の皇子日本武尊東夷を征伐せられ、山に登りて、相模の海に投せられたる橘媛を追想せられ、吾孀者耶と宣ひしといふは今の留夫山なりといふ、

淺間溫泉

信濃國東筑摩郡淺間村にあり、松本町を距ること三十町、東京より行かんには、中山道線の碓氷峠を越へ、上田停車場(三等金一圓六十四錢)にて車を下り、同所より馬車或は人力車に乗れば、十四里の道八時間にして達すべし、昨今此の地に停車場を設けんとて工事中なりといふ

湯口は、六十餘あり、菊湯、御殿湯、翁の湯、御座の湯、松の湯、柳の湯、枇杷の湯、紅葉の湯等あり、外に、外湯とて混浴室あり、旅館菊香館は、市の中央にあり、店に大龜をつるして目標とす、龜

信濃輕井澤、淺間溫泉

一一九

信 濃 國

屋の稱あり、館は眺望に富み、室も清潔に空氣の流通好く、且内湯ありて、胃病、脚氣、痲瘋質斯貧血症等に効ありといふ、

此の地の温泉は、泉質單純泉にして、無味無臭なるを以て、入浴するのみならず、飲料として水に異なることなし、

温泉宿の重なる者を擧ぐれば、
降旗元太郎、飯島菊次郎、瀧澤國十、瀧澤瀧十郎、赤堀直十、二木

與一郎、石川善司、中野昇一、山本きた、幸田盈三、二木重平、等

地を距る九町、女鳥羽の瀧あり、瀑布は大ならずといへども、夏は其の大小を問はず、瀑布といへば、涼味を覺ゆるものなれば、浴後見るも可、

淺間山

淺間山は、有名なる活火山にして、海面を抽くこと實に八千二百尺

遊客淺間温泉に來らば、亦登山を試るも一興なり、瀬下敬忠の記に曰く、

本朝に火山數多けれども此の山の如きはなし年中一日も焼けざる日なし大焼は三四年に一度ありて其時は千雷萬雷の如く巨木をぬき谷に横へ大石を飛ばして空にひるがへす其煙幾万仞といふ事なく立のほり其煙の倒るゝ時半天より亂火を降らしていとすまし煙

西へなびきかへるを凶とす常に東になびき倒る其下は焼けたる砂石を降らすこと益をくつがへすが如し四月八日己の刻までに諸人

精進してこれに詣す

安積良齊も淺間山を記して曰く、

信州は天下の絶高の地なり故に仲夏といへども深秋の候の如し沓掛に抵り官道を辭して山に入る淺間山巍然として面に當る絶頂勃

信濃淺間山

々煙を吐く審中より出づるが如し勢甚だ雄なり然るに遠く之れを望む岳連と相伯仲す近視甚だ高からず蓋し地勢既に絶高山又其上に踞し岳連の千仞削成に似ず故に然りとす一嶺を踰ひ嶺は淺間と相屬す登ること二里餘淺間は近く頭上に覆ふ已に登る稍平夷にして木華表あり地に没す餘す所僅に數尺なり馬夫曰ふ相傳ふ華表兩楔高さ二丈八尺天明中淺間山頂火を發す大石千百飛騰し空中に相驟ち響萬雷の如し諸州地震ふ灰沙雨ること數十里外山中深さ數丈此れ其の埋没する所なり仰て絶頂の己に近きを觀る其側孤峰崛起是を小淺間となす

馬夫曰ふ山嶺火を發する所突陷すること數十仞周圍里餘其中に一大火坑あり烈燄常に燃ゆ震爆の聲雷をなす山に朝する者或は其崖に至り之を窺ふて震慄せざるはなし

望淺間山嶽

星巖

信地多高峻

茲山最是雄

雖然似大度

憤鬱在其中

万古氣不滅

條條騰大空

往年怒機登

飛石闖豐隆

澁溫泉

澁溫泉は信濃國下高井郡の東に位し善光寺を距ると七里餘豊野停車場を距ること四里余其間稍平坦にして馬車の便あり、此の地は海面を抽くこと一千六百四十三尺、氣候は大暑八十五度に至ることあるもそは日中二時間程に過ぎず朝夕は七十度より七十二三度の間を昇降し嚴寒の時は四十度内外とす、概していへは冬も甚だ寒からず夏も甚だ暑からず氣候中和避暑防寒の好適地にして將た養病の好適地なり、

信濃澁溫泉

信

濃

國

加ふるに四方山を繞らし蒼翠の絶勝長流の奇觀人をして神爽に魂飛はしむるものあり、山に登れば川中島の一帶遙に組練を回らし戸隠、妙高、飯綱の諸山高く天外に聳へて何となく心氣雄大を覺ふ、神龜年間僧行基錫を曳きて此の地に至り鑛泉を發見せられ草廬を營みて病を養ひ自ら佛像を刻して泉側に安置したりと、後嘉元二年温泉開山虎關師練國師の經營に依り浴場を開くことを得たりといふ、温泉は、大湯、初湯、笹の湯、綿の湯、神明瀧湯、七操湯、目洗瀧湯、千代の湯、寺の湯、不動の湯、上葛の湯、下葛の湯、地獄谷の湯、館の谷湯、澤の湯、等に分れ

大湯の泉質は鹽類泉にして僂麻質斯、慢性痛風、神經機亢進の諸病、腦脊髓中風、依卜昆埤兒、歇私的里、神經衰弱、婦人生殖器の慢性諸病、貧血諸病、腺病、經久梅毒、に特效あり、

信

濃

國

湯本内湯月の湯は、泉質は鹽類炭酸にして大湯と同じ効あれど、特に腦病胃病に宜しといふ、(清潔にして温熱隨意にするを得浴室の周りに楓樹竹林あり入浴しなから月を觀郭公を聽くの快あり)

信越鐵道の汽車に乗れば長野市より吉田を経て豊野驛にて下車しそれより澁温泉まで馬車あり其賃金四十錢人力車なれば金六十錢とす、旅館數軒あり、原泉館は澁温泉有功第一と稱せらるゝ大湯に最も近く内湯を月の湯といふ、別荘は釣月園にありて閑靜にして何に一ツ不便を感ずることなく、温泉宿中頗る好評のあるものなり、同館の定めに據れば宿料は一人一週間の席料金六十五錢夜具一組一週間金二十八錢より金四十錢までとす故に手賄するには便利なり、日用の食料品は一圓に付上等の白米七升より八升醬油は三升より六升味噌は三貫目前後鶏卵十個内外清酒二升五合より四升までなり、魚

信濃澁温泉

類は北越地方より雪中に埋め込みて半日程にして送り來るを以て山中亦新鮮の魚に飽くを得、

當地の物産は山葡萄、花梨、桃、松茸、まめじ、竹の子、獨活、蕨、山欵冬、葛粉、岩魚、やまめ、鯉、鮎、鮪、鶏、家鴨、雉子、兔、鹿、猪、山竹、薪炭、轆轤細工、竹細工、白箸、延壽帶、ゆたんほ、湯の花、あらび粉、等なり、

若し夫れ浴後運動を試るには神明山に登るも可なり、山は眺望に宜しく本宮に登る間兩傍に櫻樹あり花時は花の世界となる、地獄谷は鐵泉地上より噴騰すること二丈餘天川の上流にして傍に浴室あり郭公紅葉を以て名あり、温泉寺は老樹鬱蒼として茂り境内に清泉あり舊跡の用ふべきあり堂上の清涼殆ど夏を忘る、和合橋は俯して清流を聴き仰きて銀河を望むを得べし、橋畔初井の清水あり清冷掬すべし、

し、

太古岩は岩石錐立し俗に針山といふ岩下地獄谷の名あり岩上松樹多く松茸を産す、天川神社は大樹森々として深山に入るかの如く盛夏尙冷を覺ふ境内に清水あり道泉といふ、澁山第一樓は藥師堂を安置す花を観るに宜しく月を観るに宜しく遊人茲に來れば歸るを忘るべし、

戸隠山

戸隠山は信州長野町の西北五里にあり、善光寺より飯綱神社に至るまでの間は、道路險惡を極むといへども、其先きは路稍平かにしてさまで恐しからず、戸隠神社は縣社にして、孝元天皇の御世に創立し手力雄命を祭る、中社は八意思兼命、寶光社は天表春命を祭る、永祿年間、武田信玄は願文を上りて、錢五十緡を納め、上杉謙信は

信濃戸隠山

社殿を改造し、徳川氏は朱印地千石を寄附せられけるが、明治に至り金四百圓を内務省より下付せられたり、春秋二期の祭典には善男善女の詣づる者多し、

旅館は清涼館、避暑亭、信北館、其他十數軒あり、地の名勝として敷ふべきものは、小富士、潜岩、木曾古跡、龍ヶ船釜添岩、毒平酒宴の場等なり、

湯田中温泉

湯田中温泉は信州下高井郡にあり、前には溪流あり、後には小丘を負ひ、仰では、黒姫山妙高山を望むべく、俯しては川中島双眸の中に集る、泉質は塩類泉にして無色無臭貧血症痲質腺病皮膚病に特效あり、湧口は總湯、鶯の湯、鶴の湯、千代の湯等に分れて成分大差なし、總の湯は浴槽を四區に分ち、微温より漸次熱度の高きものを備ふ、

を備ふ、

温泉宿は穀屋九左衛門、見崎屋善左衛門、鶴屋喜一郎、湯本五郎治等重なるものにして、外に手賄の法によることも得べく、物價は比較的廉にして、山中なれど魚類の鮮なるものも味ふことを得、

寢覺の床

寢覺の床は信濃國筑摩郡駒ヶ村上松にあり、此の地に至る者は、一見して胸中の鬱結を洗ふをよしとす、貝原益軒の寢覺の里の記に曰く、

上松の民家八十はかり此邊の景ことにすくれたり町より少し行き
て諏訪大明神の鳥居ありそれよりさき寢覺の茶屋あり上松の町より
此茶屋まで十四五町あり半里に近し茶屋より臨二町程西へ行き
て臨川寺といふ禪寺あり其のうしろに浦島が釣せし寢覺の床あり

信濃湯田中温泉、寢覺の床

寺より見ゆる岩間を傳ひて寢覺の床に下る道あり其道はなはたさ
 かし寢覺の床は木曾川の際にあり大なる岩なり岩の横十間長さ四
 十間はかりあり其高き所に辨財天の小さき社あり其一段低き石の
 上平かなる所とりわきて寢覺の床といふ其大岩の岡のことくなる
 もの幾許と云ことを知らず其上平かなり東の方は河原の如くにて
 大石あり水なし西は木曾川流る寢覺の床の大岩は西の方木曾川に
 臨みて其石岸屏風を立てたるが如し向ひにも大岩あり兩岸の間水
 の幅二間或は三間瀬ありて瀧の如くみなきり流る大河かくの如く
 狭く流るゝ故深きこと測りかたし其兩岸の狭き所長さ五十間はか
 りあり水の上の落口の岩を上臈岩といふ河中に粗石とて一つの石
 あり川向ひの大岩の上に三つの穴あり一つの穴大なるを大釜と云ひ
 二つの小さきを小釜と云ふ皆空に向へりむかひに屏風岩とて屏風

を立てたる如くなる岩あり向ひの大岩の下の端の疊岩とて疊の如
 くなる岩あり又烏帽子岩とてるぼうしに似たる岩あり其前に川の
 こなたに平岩あり平岩の上に黒岩あり其黒岩を象岩と云ふ川向ひ
 に岩山あり其黒岩に檜樅梅松などしげりてうるはしおよそ此地は
 他所にすぐれたる風景にも越へて奇妙なる風景なりいつくしく潔
 きこと心にしるしかたく詞にも述へかたし浦島が事日本紀雄略帝
 紀并に扶桑略記に見へたり又昔し曾我の寢覺の里にみかへりの翁
 といふものありて長生の薬を興へしことをみかへりといふ世俗の
 謠にも作れり又飛雲といふ謠に木曾山中にて三熊野の山伏怪しき
 ものにあひたりし事を作れりたしかなる書に見えされば二つなか
 ら信じかたし

寢覺の床の奇は今も尙古への奇の如し、

信濃寢覺の床

越後國

赤倉温泉

赤倉温泉は越後國、中頸城郡字一本木新田にありて新開の温泉場なり、東南は遙に信越の諸山を望み北は海洋に面して遠く佐渡島の海中に浮ふを見る、温泉は妙高山の東麓にありて海面を抽くこと凡二千五百尺にして高燥に屬するを以て避暑に宜しく養痾に宜しく泉質は炭酸泉にして格魯兒那篤留母重炭酸加兒基硫酸加兒基を含み皮膚病痔疾痲質斯創疾等に特効あり、上野より行かんには高崎、輕井澤、長野、柏原を経て田口停車場にて下り（瀛車賃下等金二圓二十二錢）それより人力車二人挽なれば登り金四拾錢下りは一人挽金二十錢、

温泉宿香岳樓は赤倉に於ける第一の位置を占め天氣清明の日樓に上れば東南は山靄模糊として翠黛畫くが如く北は碧波香渺として遠望極りなく座して千勝万景を見るを得目を樂しめ心を快にす、唯地の未だ人に知られざるを以て般賑ならざるも香岳樓にては和洋の料理を兼ね客室も清潔なれば繁華熱鬧の地を避け幽靜閑雅を好む人の遊ぶに最も適する所とす、宿料は三食附にて特別金一圓五十錢一等金一圓二等金八十錢三等金七十錢四等金六十錢とす、近傍の名所古跡の尋ねべきものは野尻、芙蓉湖、苗の瀧、妙高山、富士見、戸隠山鳥坂城址、蓮如上人手植の松、等とす、依田學海翁此の地に遊び詩あり

温泉客會到來宴 翠嶽背巒指願問

最有遊人堪刮目 巍然天半妙高山 (學海)

越後赤倉温泉

上野國

四萬温泉

四萬温泉は上野國吾妻郡四萬村にあり、地は山に負はれ幽靜にして避暑に適す、東京より到らんには上野より汽車に乗り前橋又は高崎にて下車し鐵道馬車に乗りて澁川に往くへし、同所よりは里程九里人力車通す賃錢は澁川より中之條まで金七拾錢中之條より四萬まで金六十錢の定規なれども車夫は通例金一圓五十錢を請求すといふ、温泉は新湯、源湯、山口源泉、に分れ泉質共に無色透明無臭にして鹹味を帯ひ其反應は亞見加里性にして一リーテル中固形二、三五六一グラムを含み慢性皮膚病、頑固癩麻質斯、脱臼、挫傷、によりて生ずる手足關節の麻痺、神經痛、胃弱、消化不良、貧血症、肝臟

病、習慣の便秘、子宮、及腔の加答留、月經不調、等に特効あり、温泉宿は田村茂三郎を主とせるもの此の地に最たるものにて從來の客室百數十間の外に近來有名なる清心館を引受けて田村別館と稱し營業せるを以て如何に多數の客ありても混雜することなく、浴室は普通浴槽十四蒸風呂八外に湯瀧もあり、宿料は普通旅籠料上等金六十五錢中等金四十五錢並金三十五錢並食料は上等金三十錢中等金十八錢並金十二錢、外に手賄せんとする人には貸室料一日八疊一等金三十三錢より金三十六錢まで二等金二十四錢より金二十七錢まで三等金十七錢より金二十錢までとす六疊なれば一等金二十五錢より金二十八錢まで二等金十二錢より金十五錢まで三等金九錢より金十一錢までにして四等一人一日三錢五厘五等は三錢とす別館の貸室料は本館より殆んど二倍高し、但し八疊は定員四人六疊は定員三人とし

上

野

國

七月一日より九月三十日までの間にして十月一日より翌年六月卅日までは低價にす、夜着一枚一夜金二錢より金二十錢まで蒲團は一枚一夜金一錢四厘より金十五錢まで、飯糰料は一週間三人まで金十錢、入浴錢は一人一日金一錢、(六歳未満無料十二歳以下金五厘)
 名産は推茸、蕨、轆轤細工、舞茸、氷餅、氷齋麥、氷干飯とす、
 此の地より附近の各地への人力車賃の定めを記せば中之條へ金五十五錢原町へ金六十五錢澤渡へ金五十五錢川中へ金一圓十錢川原湯へ金一圓三十錢澁川へ金一圓二十錢とす、
 此の地、由來幽靜閑雅を以て聞ゆるのみならず盛夏の候と雖ども華氏八十五度を越ゆることなく冬時も其地勢上殊の外温暖なれば避寒避暑共に好適にして近來入浴者絶ゆる時なし

川中温泉

上

野

國

川中温泉は上野國吾妻郡にありて前橋より草津に至る沿道に位す、泉質は無色清澄にして苦又鹹を味ひ酸化水素臭を有し反應は稍亞爾加里性を呈し温度攝氏三十六度にして、慢性皮膚疹、温疹、膿疱、疥癩、乾癬、疥癬、腺病、梅毒、佝僂質斯、痛風、子宮及、腔の加答兒、脚氣、腦病、等に効あり、
 温泉宿鳴鳳館は數棟の館ありて客室清潔背には鬱々として樹木茂り傍には飛瀑懸りて風景に富む、宿料は上等金一圓中等金七十五錢並金五十錢晝飯料は上等金五十錢中等金三十錢並金二十錢とす、貸室料は上等一日金一圓中等一日金六十錢(但し入込客一人一日金二十錢)並一日金四十錢、(入込客金十五錢)

その名さへきこえたりて世にひびく

川中の湯はにきはしきかな

福羽美勝

上野川中温泉

川中の出湯に人のあつまりて

病をよそになかしつるかな

久我延通

一三八

川原温泉

川原温泉は、海面を抽くこと、殆んど三千尺、盛夏といへども、寒暖計八十二度を越へると聞くに既に清涼を感じる心地せらるゝを、況んや、地は金鷄山の半腹を占め、山翠に水清く、境頗る幽邃にして且空氣新鮮なるをや、蓋し亦好個の避暑地と謂ふべし、温泉は硫酸加爾基、格魯兒那篤留母、珪酸、硫化水素瓦斯等を含み、胃病、佝麻質斯、痛風、脚氣、腸胃加答兒、子宮病、月經不順、關節痠痺、貧血症、消化不良、神經痛等に効あり、湯口は虎の湯、瀧の湯、笹の湯に分れ、旅館は萩原慎太郎の敬業館を第一とし、升屋(樋口宗七郎)山本屋(樋口又平)柏屋(豊田道藏)あり、料理店に

は、柏屋、高田屋、林屋、中屋等あり、此の地の温泉宿は、皆協同一致して、土地の繁榮を計り、飲食店又は他の商店にても、不都合の所爲ある時は、直に取締所へ通知せば、相當の處分をなし旅客には寸毫も迷惑をかけまじなどいへる規約を結ぶ如き、是れ各地温泉場競争の結果としてさもあるべきことながら、今尙伊香保あたりに於て宿引などの弊あるに比すれば、誠によろこぶべきことなりとす、

宿料は、敬業館の定めによれば、入浴錢一日金一錢(十二歳以下及一泊の客無料)貸室料は、一週間一等金二圓より金三圓五十錢、二等金一圓五十錢より金二圓まで、三等金一圓より金一圓五十錢までとす、四等は金七十錢より金一圓まで、五等は金三十五錢より金七十錢までとす、外に特別上等室あり、(毎年十月一日より翌年三月末

上野川原温泉

一三九

日まては總へて二割減）夜具は一組一夜金四錢より金十錢までとし
外に特別上等あり、下婢を雇ふは客の随意、

近傍に不動瀧、久森墜道、湯原の桃、大澤湯等見るべきもの多し、浴
後散歩を試みるに宜し、

此地より、高崎及前橋へ十四里、澁川へ十里、伊香保へ九里、草津
へ五里、四萬へ六里、澤渡へ七里、大戸へ三里、中の條へ五里、

草津温泉

草津温泉は上野國東北の極端吾妻郡に在り、地は桶盆の如く四方に
丘陵を繞らし低所に温泉湧く、蓋し淺間山の餘勢此の地に至り一頓
してて平原をなし以て鐵泉の出づるもの、當地の一井善三郎氏の物
せる草津温泉案内記に状況を説くこと詳なり、曰く、

西に白根山峙ち北は澁湯嶺にして信州高井村平穩村へ越るの途な

り東北の間は入山村を越て越後國に接し東南は淡々たる原野にし
て小雨村を越え澤渡四萬伊香保への行途あり又長の原川原湯に越
る途あり南遠く信濃國淺間山を見る東海面より高きこと四千五百
尺極暑八十八度を越えず寒冷廿四五度に至る鐵湧泉四十ヶ所東北
に向ひ下流して草津川と稱し吾妻川に併せ利根川に會す暑中蚤蚊
の患なし昔時は冬を小雨村に轉舎せしも開明の時にあたりて定住
を村則とす

傳へいふ元正天皇の養老年間大和菅原寺の行基尊者此地に歴遊し初
めて發見すと、其後建久年間源賴朝の淺間山に獵するや分營を上州
三原に置きしが狩り了へて細野幸久といふ者を先導として山野を跋
渉せられけり、此時この泉を見出され露宿して入浴し幸久に湯本の
姓を賜ひ屬するに吾妻郡を以てせられたりと、文祿四年豊太閤茲に

上

浴せんとて道を中山道に取り宿驛まで定められけるも軍國多事の爲めに遂に果たされざりき、寛永四年徳川大樹公試浴の台命あり鑛泉を江戸に輸送し御汲上の湯と稱せり、

野

御汲上の湯は村の中央にありて東北に面し縦横に五間許全面より湧く温泉は滾々として晝夜歌む時なし、外に白旗の湯、熱の湯、脚氣の湯、綿の湯、松の湯、和志の湯、富の湯、瀧の湯、地藏の湯、玉の湯、煮川の湯、眼の湯、等ありて泉質は強酸性に屬し、梅毒、先天的遺毒、慢性腸加答兒、慢性皮膚病、疥癬、佝僂質斯、脚氣、痲病、痔、等に特効あり、但し湯中りと稱する浴熱病に罹ることあるを以て、宿屋に聞きて初めより強き湯に入らぬやうにすべし、温泉宿の重なるものは一井善三郎、黒岩忠四郎、湯本柳三郎、桐山二平、山口奉八郎、中澤市郎次外數十軒あり、望雲館（黒岩忠四郎を主と

國

上

野

國

せるもの）は構造宏大客室清潔懇切にして世上一般の客舎の如く世辭を並べざるも浴客をして第二の故郷として永く忘れざらしめんことを勉むるは此館の特色宿料は一人一週間の定めなれば一等金五圓以上七圓以下二等四圓以上五圓迄三等三圓より三圓半までとす、一井善三郎の旅館は屈指の好位置を占め交通も極めて便利よし、且數棟の家屋を市中到る所に建設し何れも三層四層なるを以て眺望に富むこといふまでもなし、此館の特色として別館毎に十餘の浴場あるを以て浴者の求めに應じ貸切るの便あり、宿料は旅籠料（一切旅舎に任ずるもの）一泊金四十五錢より金一圓五拾錢までにして晝食料は金二十錢より金七十五錢までとす、外に日用食料原品を客室に備へ炊事女をして料理せしむること得、かくせば一人一週間の宿料三等金二圓五十錢二等金三圓内外一等金三圓五十錢内外を要すべ

上野草津温泉

し、但し一等二等三等とも食料の原品は同質にして室と夜具等の點に於て上下あるのみなり、

物價の一斑を舉ぐれば一等米一升金十八錢醬油一合金五錢味噌百目金五錢五厘水油一合金六錢炭一箱（石油箱）金三十五錢名産湯の花百目金十五錢より三十五錢まで湯錢一人一日金一錢六厘飯糰料一人一日金一錢なり

東京より往かんには瀛車にて上野より高崎に到り同所にて直江津線に乗り換へ信州輕井澤にて車を下りそれより草津まで十里餘人力車を走らすへし、又高崎或は前橋より澁川まで鐵道馬車あり澁川より中之條原町川原湯長野原を経て草津まで十五里此間人力車あり、白根山は草津の西にあり、海面を抽くこと六千五百尺、信州の淺間岳と南北に對峙す、風母に富み萬葉集の等保斯等布故奈乃思良禰爾

安抱思太毛安波乃傲思太毛奈爾已曾與佐禮とあるは此の山をいふなりとぞ、

常布の瀧は志布嶺の途上にあり南に面し二層に分れて落つ、高さ百二十尺、白布を懸くるに似たり、堯惠法師の「世にしらぬ布ならなくに山姫のいかにさらせる瀧の白糸」と詠みしは此の瀧のことなり、圍山は納涼觀月に適するを以て名あり、

氷谷は草津の西方半里許隔りたる山間の岩穴にして穴中常に堅氷の解けざるあり、

毒水は源を白根山に發して澁嶺越を横斷せる水流なり、之を飲む者は腹痛下痢を起すことありといふ、

草津の物産は湯花、轆轤細工、氷蕎麥、氷餅、柘楠箸、柘楠花漬、馬鈴薯粉、片栗麵、鴉、山目魚、ユツナ魚、湯晒、艾、智惠板、智

上野草津温泉

惠組棒、蘭木箸、

寄湯祝

近衛龍山公

むすぶてふこの谷かげの白湯にこそ

うへも老せぬくすりなりけれ



伊香保温泉

伊香保温泉は、上野國群馬郡伊香保町にあり、東南は山を負ひ西は溪に臨み北は稍眺望宜し、地は海面を抽くこと三千尺、極暑の時も寒暖計八十度を上ること稀に、蚊蠅少く、蚊帳は用ゆること甚だ稀れなりといふ、

東京より赴かんには、高崎若しくは前橋まで涼車（高崎まで八十九

錢とす）に乗り同所より鐵道馬車に乗りて澁川に到り、澁川より伊香保までは人力車に乗るをよしとす、（高崎よりの里程七里餘）

泉質は、純粹なる炭酸泉にして、貧血症、月經不順、胃弱、佝僂質斯、神経痛、麻疹痘瘡より發したる頑癬、子宮病等に特効ありといふ、

明治十二年、英照皇太后陛下御行啓あり、それより其名愈々高く、温泉といへば伊香保を、思はしむるに至れり、

原泉は、市街の南方なる溪より湧き出るものを、竹の樋にて、温泉宿の浴室に導く、温泉宿の大なるものは、石阪惠十郎、塚越七平、森田秋三郎、福田與重、村松秀茂、島田多朔、木暮某等にして外に大小數十軒あり、

物聞山は杜鵑の名所にして、伊香保八景の一に數へらる、伊香保町

上野伊香保温泉

の南にありて眺望好し、

伊香保沼は、一名を榛名湖といふ、菅浦と笠の名所なり、

榛名山は、伊香保町を距る二里、登る者は案内者を雇ふて徒歩するをよしとす、齊藤竹堂の上毛紀勝に曰く、

榛名山は妙義を距る七里にして遠し松枝より北し桑田中に行き風剪嶺を踰へ洞に沿ふ水石淙として鳴く兩耳洗ふが如し夜榛名に至り小川文晋の宅に宿る習雨を冒して登る山頂喬松千章勢雲霽に迫り路の右は溪水奔注し石と相激し洞草泚毛皆怒る奇岩其の上に亘り鞍の馬背にあるが如し左崖は巖巖疊立重樓複閣の如し風岳となり雷岳となり首を昂け爪を張り勢捩噬せんと欲するは獅子岩なり兩峯對峙して双眉の如きは日月岩となす松檜山腹に生じ根露骨瘦枝皆倒垂して墜ちんと欲す朱欄橋を渡り大石路に塞る身を側て

其隙を過く衣袖鈎牽す摩袖石と曰ふ稍上る泉涓々壁間を下る萬年泉と曰ふ歷序楓あり一葉拆して十二となり閏歳更に十三となる是の時萌芽未だ生せずと其信否知るへからず然るに余山水に浪放し世事既に懷を忘る則ち歷序ありといへとも又何ぞ用ゐん其の西は廟門華にして整危嶠之れを覆ふ大厦の將に傾かんとするが如し祠前突巖にして地を抜くこと數十仞後巖傑立し頭肩皆備はる巨丈夫の如し神影石と名つく下に石塔あり聞く山中に雌雄鴉あり山下松樹中にあり毎歳子を生む之れを山外に送り敢て一雛を留めず土人以て神となす食を塔上に供す二鴉來り食ふ未だ嘗て他鴉の至るを見ず

湖あり周回一里湛然として底なし中に神物あり雨を禱る必ず驗あり一峯東に聳ゆ芙蓉の泥を出づるが如し小富士といふ對岸峯巒聯

接し帆の如く冠の如く硯屏の如し上皆樹なし細草に布く葦荷明媚
別に一境を闢く古へ伊加保湖と稱する是れなり

磯部鑛泉

上野國碓氷郡磯部村にあり東京より赴かんには日本鐵道上野發の涼
車に乗り高崎を経て磯部停車場(三等金一回一錢)にて下るへし、
此の地土地の高燥なるにもあらず風光の美なるにあらずれとも近時
磯部の名高く繁昌するものは交通の至便なるがためか、泉質は炭酸
質冷泉にして火力を加へ沸かして初めて温泉となる實は天然の温度
あるにあらず是れ磯部鑛泉のために遺憾とする所なり、
此地にて遊覽に適する所は、
横野は古より名高き壘の名所にして春に至れば野は滿面莖を以て覆
る磯部を距ること十余町、

佐々木盛綱の城址は城山にあり建仁年間佐々木盛綱一城を築きて茲
に居りたりと傳ふ、又成綱の墓は磯明山松岸寺境内にあり、碑面の
文字磨滅して讀むべからず、

大野九郎兵衛の墓も松岸寺にあり、墓は自然石にして慈望遊謙靈の
五字を勒す、九郎兵衛は赤穂城渡の後孤劍飄然此の地に來り手習師
匠となり字を教へて僅に生計を立てたり、寛延四年秋風の吹くやも
ろくも朝の露と消えて磯部の地は九郎兵衛が終焉の地となる、
仙石の碑停車場の西にあり、昔し仙石侯大王村より碓氷川の水を引
かんと土工を起し磯部をして永く水利の便を感せしむ、村民其徳を
追慕し、功蹟を石に刻し歳時に祭る、
磯部温泉宿の重なるものは鳳來館、三景樓、對岳樓、山城軒、信泉
亭、等とす

上野磯部鑛泉

妙義山

磯部より妙義山に往くには瀛車に乗り松井田停車場にて下車し、碓氷川を渡れば、僅か一里許の里程なり、妙義山は白雲金洞金雞の三峯に分れ、奇勝を以て名あり、妙義神社より左折して行くこと數百歩にして金洞山に達す、遙かに金雞山の風穴なるものを見る、第一石門は、石門中の尤も奇なるものにして巨巖天に中し穴は巖を穿ち天然の洞門をなす、第二石門は其の大き第一石門の三分の一位なり、第三第四に至れば、奇峭愈々加へて人皆悚然として恐れて山を下るを常とす、石門中尤奇なる者は金雞山の奥にあり、長さ三十餘丈高さ五六丈進むこと十五六町にして昏し、秋里離島此の山を記して、

此山のすかた世に類なき奇異のありさまなれば神靈あることむべなりかゝる名山には必ず靈あり故に祈らばしるしありとぞしられる

と、實に奇にして險なる此の山の如き稀に見る所なり、傳へいふ、古昔、長清道士といふ者あり、父の仇を避けて此の山に入り、心を練り岩下の穴中に跌坐すること多時、一牛を買ひ食盡く毎に食物を求むるよしを書して角にかけ山を下らしめて里人の施しを受けたり、と信偽固より保すべからざるも傳ふところは實に斯の如し、

妙義神社の奥の宮は山の東麓にあり、傍に奇岩多し、神官の家にては遊客の爲めに飯を供すといふ、

澤渡温泉

澤渡温泉は上野國吾妻郡澤渡村に在り、地は三方に山を繞らし、東

上野妙義山、澤渡温泉

南は田圃相連りて眼界寛なり、湯口はすべて四ヶ所、泉質は鹽類泉にして臭なく味なし、皮膚病、梅毒、腸胃病、貧血症、腺病、等に特效ありといふ、

澤渡にも八景の撰あり、澤渡の納涼、小芙蓉の積雪、琴平祠の櫻花、蛇川の晚釣、有笠山の秋月、大沼の瀑布、聖洞の子規、雲井里の驟雨とす、いづれも好景なれども、地僻にして其名の世に知られざるを惜む、

温泉宿の重なるものは、福田六右衛門、福田みき、關總吉等とす、福田喜八郎は目下休業中なり、

霧積鑛泉

霧積鑛泉は碓氷郡碓氷峠の山中にあり、横川停車場を下り、西北三里に近く人力車通ず、四面皆山に圍まれて一郷をなす、霧積川は中

央を流れ水清冷を極む、山は秋の景色に富み、紅葉の名所たり、武尊、背觀、忍ぶの瀑布、八栗山、鞍懸山、蝙蝠穴、遊仙峽、等遊覽すへき所とす、

地は海面を抽くこと三千八百尺、夏涼しく、鑛泉は鹽類冷泉にして、霧積川の上流より湧くものを、導きて浴室に入れ、焚きて温浴に用ふ、腸胃加答兒、皮膚病、佝僂質斯、火傷等に効ありといふ、

浴館は錦楓閣、淡香館の二軒にして、共に都會にありても耻しからざる程の構造にして、設備亦完全せり、旅館長生館は目下休業中なり、

藪塚鑛泉

藪塚鑛泉は新田郡藪塚字湯の入にあり、北には丘陵を負ひ南は地勢開けて眺望快豁、この地は新田義貞の義兵を擧げし地なり、石崎停車

場を距る三里人力車通す、

泉質は單純泉にして、疥癬、梅毒、脚氣、痔、痲氣等に効あり、浴舎は今井樓といひて、家屋大に能く行届けること田舎に稀に見る所なり、且地の一方に僻在するにも係らず日常の品に事欠くとなく、夏時浴客多し、避暑地として頗る適當、喧噪を厭ふ人、雜關を嫌ふ人は須らく一遊を試むべし、此の鑛泉は冷温の二浴に分る、

長岡鑛泉

長岡鑛泉は新田郡長岡村にあり、此の地に赴くには、大間々停車場にて下車して人力車を驅るをよしとす、風光の賞すへきなしといへども、此の鑛泉は、痛風、婦人生殖器病等に特效ありとて、浴客多く、夏日に至れば、四方より來る者多し、

旅館を長生館といふ、冷温二浴を設けて浴客をして、隨意に入浴せしむ、結構宏大にして客室多く且清潔なり、御所山は惟喬親王の、邸の址としていひ傳へらる、四邊の風光幽靜にして眺望に富む、



上野長岡鑛泉

下野國

那須温泉

那須岳は一に茶臼山と稱し有名の活火山にして山頂常に黒烟吐をく、温泉は實は此山の四邊より湧く、

日本鉄道奥州線に乗れば黒磯停車場にて下り同所より那須湯本まで四里九丁此間馬車賃一人金五十五錢人力車金六十五錢乘馬金五十五錢、但し歸路なれば馬車人力車共に金五錢位の直下すべし、湯本は那須村に屬し北に那須岳を負ひ西南は頗眺望に富めり、湯本より十二町にして高雄股温泉に至り、三町にして辨天温泉に至る、辨天を祀る、一里にして北温泉あり山岳に圍まれて播盆の底の如し、一里五町にして大丸温泉に至る、温度は華氏の百度より百五十度に達し頗熱

し、三里にして三斗小屋に至り、三里半にして板室温泉に至る、以上七湯に湯本を加へて那須の八湯となる、泉質は酸性強きが故に、浴客は初めより注意すへし、瘡毒、胎毒、偃麻質斯、痲疾等に特効ありといふ、

温泉宿は小松屋、河内屋、和泉屋、中藤屋、松川屋、橋本屋、松屋、常盤屋、松野屋、立花屋、清水屋等ありて宿料は一泊一等金八十錢二等金六十錢三等金四十錢晝食料は一等金三十錢二等金二十五錢三等金二十錢とす、外に手賄することを得べく、席料は一等一日金十錢二等金八錢三等金六錢とし、米蔬菜味噌等の食料と、蒲團代とを合算せば、一等席料の者は一日分金五十錢、二等席料の者は金四十錢、三等席料の者は金三十錢位を要すべし、但し贅澤の方は此の限りにあらずと心得らるべし、

那須近くにて名勝古跡を尋ぬる者は第一に那須温泉神社を見るべし、延喜式内下野十一社の一にして大己貴命、少名彦命を祀る、社に藏する所の鏑矢は那須與一の奉納する所に係り、大鹿の角は源頼朝この地に獵して獲たるものなりといふ、殺生石は湯本にあり、人どなく獸どなく觸るゝ者は、皆死せしを其後法力に依りて怪やみしと傳ふ、芭蕉の碑に「飛ぶものは雲はかりなり石の上」の名句あり、見立明神の下にも芭蕉の句を刻す、「石の香や夏草あかく露あつし」、前座原は湯本の南端にありて眺望に富み關八州の風光一眸の下に集る、
其他那須八景の撰ありて古人の其の勝を詠せる者多し、此の地に遊ぶ人は就いて見るべし、

ヤ
ミ
ヤ
ヤ
ヤ



黒田原温泉

黒田原温泉は、那須の温泉より樋を以て、引きたるものにて、旅館には若松屋木山田外數軒ありて、若松屋は割烹店を兼ね、地は海に遠きを以て魚類の鮮なるものは望むへからざるも、川魚等にて、味をみたすを得へし、
東京より行かんには上野停車場より汽車に乗り、奥羽線に向へは、黒磯停車場の次きは即ち黒田原停車場とす、此の地を過ぎし者は、停車場近くに 温泉廣告を見るへし、
近來開けたる温泉なれども、地方人の勉強次第によりては、盛んになるへし、旅館には内湯の設もありといふ、

川治温泉

川治温泉は下野國鹽谷郡藤原村にあり、湯口は男鹿川の岸にして、

下野黒田原温泉、川治温泉

挫傷、痔疾、胃病、肺病等に効ありといふ、東京上野の汽車に乗れば、今市停車場にて下車し、六里半を行けば、川治に達す、温泉宿は、懐古樓、清水屋の二軒あり、

藤原温泉

藤原温泉は下野國鹽谷郡藤原村にあり、鬼怒川の岸より湧く、泉質は鹽類泉にして、健麻質斯、痛風、貧血症等に効ありといふ、鬼怒川の南岸に瀧の湯あり、硫黄泉に屬す、此地に到るには、今市停車場を下れば、人力車を走らし二三時間にして達すへし、旅館は僅かに兩三軒あるのみ、

川俣温泉

川俣温泉は下野國鹽谷郡川俣村にあり、今市停車場よりは十一里餘、日光町へは七里餘、地は屏風にて掩はれたる如くにして、樹木鬱蒼

日光を漏さずといひたげなり、傳へいふ、平氏の亡ふるや遺族逃匿して此の地に來り、此の温泉を發見したりと、近くに平氏塚あり、温泉宿に平氏の後裔なりといふものあり、泉質は硫黄泉に屬し、胃病、挫傷等に効ありといふ、湯口は地蔵の湯、瀧の湯、河原湯の三に分る、

此の温泉の如き好温泉にして、又好景に富めども、近くに那須鹽原等あるを以て、其名顯はれず、地のためには惜むべきことどもなり、

鹽原温泉

鹽原温泉は下野國鹽谷郡鹽原山の麓にあり、温泉は上鹽原中鹽原下鹽原湯本鹽原の四ヶ所に分る、

大網は鹽原の人口にして温泉宿一軒あり、福渡戸には岩の湯不動の湯冷の湯藥研の湯等あり泉質は鹽類泉にして健麻質斯、貧血病、胃

下野藤原温泉、川俣温泉、鹽原温泉

弱、子宮病、痔等に特効あり温泉宿數軒結構の大なるものもあり、畑下戸の南に吉井瀧あり直下十七丈岩をつたひ落つるさま中々に奇なり温泉宿數軒あり、門前は頗る繁華にして温泉宿亦多し、古町は門前と一橋を隔てたるのみ温泉宿の大なるものあり、鹽の湯は東西とも山を負ひ風光美なり、須磨に六條の湯瀧あり故に瀧の湯ともいふ、古町の西に新湯あり道路險惡なり、東京より赴かんには日本鐵道東北線に乗り、西那須野停車場にて下車し、同所より人力車或は馬車にて大網まで行くへし（那須野まで三等賃金一圓二十九錢）、温泉宿の重なるものは、福渡戸にては満壽屋、松屋、玉屋、叶屋とし、畑下戸には佐野屋、紙屋、大和屋等あり、門前には富田屋、松本屋、山口屋等あり、古町には上の會津屋、米屋、萬屋等とし、鹽の湯には明賀屋、玉屋、柏屋等あり、新湯に

は藤屋、大黒屋あり、

此の地瀑布多し、回顧瀑、仙髯瀑、冷々瀑、留春瀑、龍化瀑、雷霆瀑、咆哮瀑、素練の瀑等見るべきもの趣なからず、妙雲寺は平重盛の女、佛に歸して妙雲尼と稱し、父の冥福を祈らんとて建てしもの、寺の後には尼の墓あり、鹽原の山は晩春躑躅咲きて満山皆花、秋は楓葉紅に染みて満山皆錦繡、

大平山

大平山は下野國栃木町の西にあり、東京上野より栃木町まで汽車（三等金七十八錢）、に乗り同停車場よりは人力車（金二十錢計）通ず、麓より石階を上げれば神社あり、其東南三丁餘にして公園あり、老松古杉森々として茂り日中日光を漏さずして寒暖計八十度を上ること稀

下野大平山

なり、故に避暑の客には求めて求め易からざる涼味を感すへし、殊に脚氣患者の轉地療養地として名高く此の地に上つて癒へざる者なしといふ程なり、
 眼を放てば一望千里關東の平野開けて眼界極りなく、富士山は高く天外に聳へ筑波山は突兀として東に峙ち常總甲武の諸山は其下に連りて見孫の如し、利根川渡良瀬川は其間を迂曲して流れ、赤麻沼は前面に湛へて清澄鏡を欺く、避暑か避暑か我にして避暑せんには夫れ唯大平山歟、
 山頂御寮店にして旅館を兼ねる者數軒、山上固より八珍の美なし、然れども山高く氣澄むこと太平山の如き何ぞ美味を求めんや、仙境自ら仙境の味あり遊へよ太平山に、
 美味に飽くこと出來ざればとて亦普通の品には事欠かず、宿料も他

より大に低廉なり、

此の山は元治元年水戸浪士の集りしより、其名高く、其後官林の一分を合せ公園となりしより愈々世に知らる、

山すし天狗の團扇からすさも

機 一

日光

東京上野より日本鐵道の列車に乗りて發せば三時間にして宇都宮に至るべし(正北三十里電車賃下等一圓二十八錢)それより分れて西北に向ふ鐵路を日光鐵道といふ、宇都宮より日光まで里程九里餘、日光町は日光山の東麓にあり、南は鳴虫山を負ひ北は鹽谷那須二郡の諸山連亘し大谷川は町を東西に分ち戸數八千に近し、
 日光山は巍然として雲外に屹立し實に東照宮の鎮座する所とす大谷川の水は滔々として流れ或は石に激するもの沫を噴きて珠玉を轉す

下野日光

一六七